
UIDE-133 取扱説明書

【ご注意】

- 1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
 - 2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
 - 3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
 - 4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
 - 5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
 - 6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
 - 7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
 - 8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
 - 9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
 - 10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関する設備や機器、及び海中継機、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込みでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
 - 11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
 - 12) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
 - 13) お客様は、本製品または、その使用权を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
 - 14) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
 - Microsoft, Windows, Windows NTは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
 - その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

はじめに

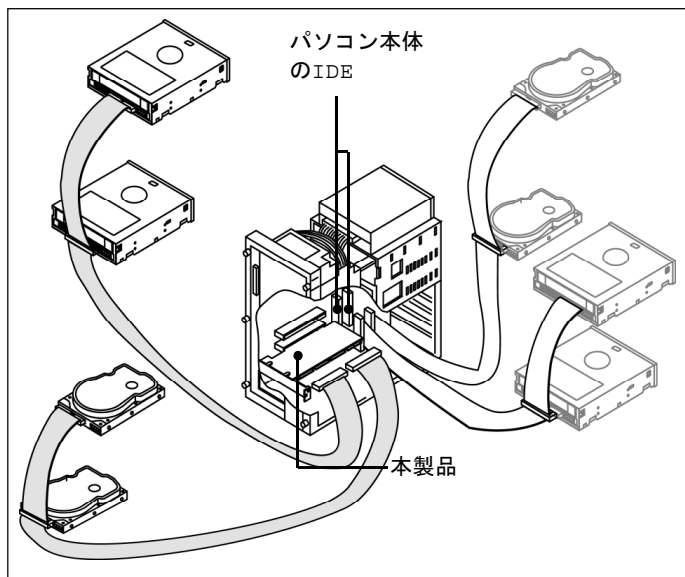
**このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いいたします。**

本製品を使えば、Ultra ATA/133インターフェイスを搭載していないパソコンで、Ultra ATA/133対応機器が使用できるようになり、高速転送ができます。

今までパソコン本体のBIOSの制限で使用できなかった大容量ハードディスクも本製品に接続すれば使用することができます。

また、本製品（最大4台接続可能）とパソコン本体のIDEインターフェイスとの併用が可能です。（イメージ図参照。パソコン本体にIDE機器を取り付けるスペースおよび電源が必要となります。）



▼イメージ図



呼び方

本製品	ボードを含む添付品すべての総称
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Edition Operating System、Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating Systemの総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating System、Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating Systemの総称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows	Windows XP、Windows 2000、Windows Me、Windows 98、Windows 95の総称
IDE機器	IDE/ATAPI規格を満たした各種デバイス（ハードディスク、CD-ROMドライブなどのEnhanced-IDE機器）
標準ハードディスク	お使いのパソコンに接続されている標準ATA対応ハードディスク
増設ハードディスク	新規購入した増設用内蔵ATA対応ハードディスク

使用しているアイコン

	《注意》 注意してほしい事項を記述しています。必ずお守りください。
	《参照》 参照先のページを表記しています。

もくじ

はじめに	i
もくじ	iii
必ずお守りください	v

本製品を使うまでの手順

以下の流れにしたがって、本製品を使う環境をつくりましょう。

“☺”を読めば本製品を使うことができます。

【はじめにすること】

☺使う前に

箱の中の確認	2
各部のなまえ	3
動作環境の確認	4

【本製品を使えるようにする】

☺使う準備をする

取り付ける前に	8
取り付ける	11
インストールする	12

【IDE機器を使えるようにする】

☺使ってみよう

IDE機器を接続する前に	38
IDE機器を接続する	41
IDE機器の確認	47

必要なときに読むところ

使用中にトラブルがあったときの解決法や本製品の付属情報です。

ふろく 55

困った時には	56
BIOSの設定	68
接続後にインストールする	74
IDE/ATAPIについて	91
用語解説	96
別売オプション品	98
仕様	99

お問い合わせ先 100



サポートセンター	100
サポートソフトのバージョンアップ	101
修理について	102

必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。

ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告および注意事項


 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味



この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。


記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)  「発火注意」を表す絵表示



この記号は禁止の行為を告げるものです。


記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)  「分解禁止」を表す絵表示



この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。

記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)  「電源プラグを抜く」を表す絵表示

警告



厳守

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。



電源プラグを抜く

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源を切ってコンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



分解禁止

本製品を修理・改造・分解しないでください。

火災や感電、やけど、動作不良の原因になります。

修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。



発火注意

本製品を取り付ける場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- 接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。故障や動作不良の原因になります。
- 接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因になります。



厳守

本製品の取り付け/取り外しの際は、必ず本書で取り付け/取り外し方法をご確認ください。

間違った操作を行うと火災・感電・動作不良の原因となります。



禁止

本製品を濡らしたり、お風呂場では使用しないでください。

火災・感電の原因となります。お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。

⚠ 注意



注意

本製品を使用中にデータなどが消失した場合でも、データなどの保証は一切いたしかねます。

故障に備えて定期的にバックアップをお取りください。



禁止

本製品は以下のような場所で保管・使用しないでください。

故障の原因になることがあります。

《使用時/保管時の制限》

- 振動や衝撃の加わる場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気やホコリが多い場所
- 温度差の激しい場所
- 熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- 強い磁力電波の発生する物の近く
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- 水気の多い場所（台所、浴室など）
- 傾いた場所
- 腐食性ガス雰囲気中（ Cl_2 、 H_2S 、 NH_3 、 SO_2 、 NO_x など）
- 静電気の影響の強い場所

《使用時のみの制限》

- 保温、保湿性の高いものの近く（じゅうたん、スポンジ、ダンボール、発泡スチロールなど）
- 製品に通気孔がある場合は、通気孔がふさがりやすいような場所



禁止

本製品は精密部品です。以下の注意をしてください。

- 落としたり、衝撃を加えない
- 製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- 重いものを上にのせない
- 本製品のそばで飲食・喫煙などをしない



注意

本製品（ソフトウェア含む）は、日本国内仕様です。

本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、およびアフターサービスなどを行っておりません。あらかじめ、ご了承ください。

必ずお守りください

使用上のご注意

ご使用になる前にサポートソフトのルートフォルダにある「README.TXT」を必ずご覧ください。

●本製品を取り付ける際の注意

- ・本製品を取り付ける場合は必ずパソコン本体の電源を切ってください。
- ・パソコン本体内部は金属片がむき出しになっている場合があります。手などにけがをしないよう、充分注意して作業を行ってください。
- ・他のケーブルや電源部、基板などは触らないようにしてください。
- ・ネジやクリップなどを誤ってパソコン内部へ落とさないでください。
- ・ケーブルを抜くときは、ケーブル部分を引っ張らないで、コネクタを持って抜いてください。
- ・パソコン本体の内部基板や本製品は静電気に対して大変敏感です。衣類や人体にたまった静電気に触れると破壊されることがありますので、ご注意ください。本製品に触れる前に、金属製のものに触れるなどして静電気を放電してください。また、エッジコネクタ部分には絶対に触れないでください。

●使用する際のご注意


- ・本製品に接続したハードディスクから起動させることも可能です。また、UIDE-133に接続した状態でフォーマットを行い、OSをインストールすることができます。ただし、ご使用のパソコン本体によりOSの再セットアップ方法が異なりますので、弊社および本体メーカーでは再セットアップについてのサポート・保証は致しかねます。
※OSの再セットアップには、パソコン本体に接続したCD-ROMドライブが必要です。
- ・パソコン本体接続のATA対応ハードディスクがない場合（ATAPI対応のCD-ROMドライブやDVDドライブのみの場合など）、パソコン本体が起動できなくなったり、CD-ROMドライブを認識しなくなる場合があります。その場合、パソコン本体にATA対応ハードディスクを接続してください。
- ・弊社製UIDE-66、UIDE-DVシリーズ、およびUIDE-98シリーズとの併用はできません。また、他社製IDEおよびIDE/ATAPIインターフェイスボードとの併用はできません。

使う前に

ここでは、本製品を使う前の作業について、順を追って説明しています。

箱の中の確認


内容物リストです。

 2ページ



各部のなまえ


各部のなまえを確認します。

 3ページ



動作環境の確認

本製品を使うときに必要なパソコンの種類です。

 4ページ

箱の中の確認

ご使用前に以下のものがそろっていることをご確認ください。

(にチェックをつけましょう)

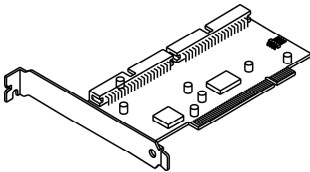
万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。



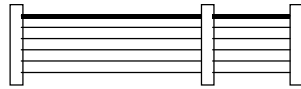
- ・箱・梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。
- ・イラストは若干異なる場合があります。

●内容物

UIDE-133 (1枚)



Ultra ATA/133対応
IDEフラットケーブル
(1本 [FL-140H-L相当(60cm)])



UIDE-133サポートソフト
(1枚：フロッピーディスク)



●その他

- UIDE-133取扱説明書 (本書)
- ハードウェア保証書 (1枚)
- ハードウェアシリアルNo. シール (1枚)
- ユーザー登録カード (1枚)

ユーザー登録は済ませましたか？

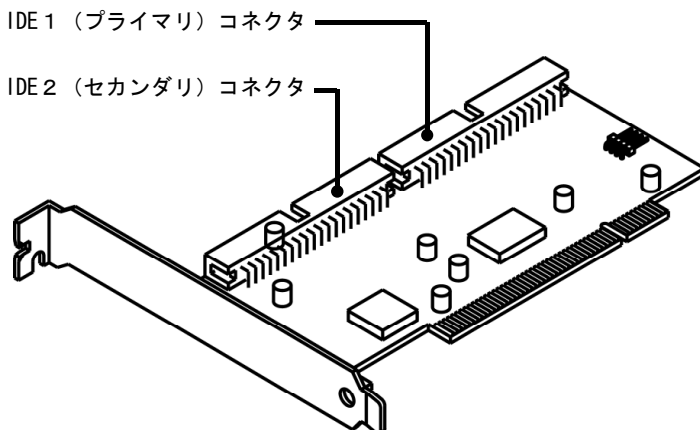
「ユーザー登録カード」に登録方法が記述されています。

登録してから、次ページへ進みましょう！

各部のなまえ

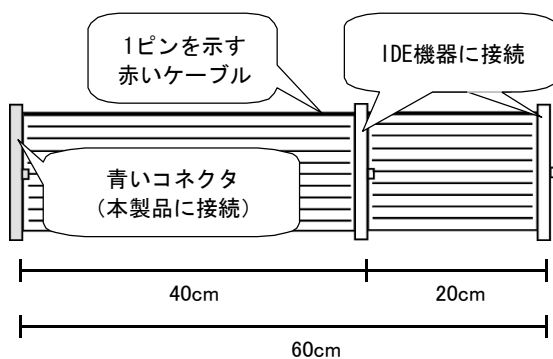
各部のなまえを確認します。

●Ultra ATA/133インターフェイスボード



●Ultra ATA/133対応 IDEフラットケーブル

(FL-I40H-L相当)



動作環境の確認

本製品をお使いになるためには、お使いのパソコンが以下の機種やOSである必要があります。対応していることをご確認ください。

● 対応機種

PCI (Peripheral Component Interconnect) Ver. 2.1バススロットを搭載し、CPUにi486以上を搭載した以下の機種

※ Low Profile PCIスロットには対応していません。

・ NEC PC98-NXシリーズ

・ DOS/Vマシン

- ・ 三菱電機 apricot MS540, 富士通 FMV-DESKPOWER SE (FMV-5133DPS), FMV-DESKPOWER SP (FMV-5150DPS), FMV-DESKPOWER S1120, S11167を除く
- ・ FMV-5133DE3, FMV-5120DE3 (96年2月モデル), FMV-5166D5, FMV-5133D5, FMV-5120D5, FMV-575D5 (96年2月モデル), FMV-DESKPOWER SE, SP (96年2月モデル), FMV-DESKPOWER H, SX, S (95年11月モデル), FMV-DESKPOWER TE, TP (96年2月モデル), FMV-DESKPOWER T (95年11月モデル) をご使用の場合、転送速度の向上が得られません。FMVの発表時期に関しては富士通(株)のホームページをご参照ください。



ケーブルは本製品添付のケーブルをご使用ください。(もしくはオプションケーブルFL-140Hシリーズをご使用ください。)

各種本体や接続機器の組み合わせなどにより、Ultra DMA mode6 (133MB/s転送) がご利用いただけない場合があります。

最新情報については、弊社ホームページをご覧ください。

<http://www.iodata.jp/>

● 対応OS

Windows XP

Windows 2000

Windows Me

Windows 98 (Second Edition含む)

Windows 95 OSR2以降*

※ハードディスクの容量確保時、OSの仕様により1パーティションにつき32Gバイト以上のパーティションは確保できません。

● 動作確認済みの機器

以下の弊社製機器です。

UltraATA対応ハードディスク：UHD1シリーズ，HD1-7000シリーズ

ATAPI対応CD-RW：CDRW-AB32B，CDRW-AB24B，CDRW-AB24J，CDRW-AB20J，
CRWD-AB20J※

※ファームウェアバージョン1.22以降

ATAPI対応MO：MOF-ABシリーズ

ATAPI対応DVD：DVD-AB16A，DVDRW-AB4.7P，DVDRR-AB4.7



- ・ Ultra DMA転送を行えないIDE機器を本製品に取り付けた場合は、PIOまたはDMA転送となります。（各IDE機器の取扱説明書を参照し、対応する転送モードを確認してください。）
- ・ 増設用のハードディスクを起動用としてご使用になる場合は、環境の移行が完全に終了するまで、必ず元の環境を残してください。
- ・ IDE機器は、ご使用になるパソコンおよびOSに対応していることをご確認の上、接続してください。


MEMO

使う準備をする

本製品を使えるようにするには、以下の作業が必要になります。手順にしたがって準備しましょう。

取り付ける前に


本製品を取り付ける前の準備をします。

 8ページ



取り付ける


本製品をパソコンに取り付けます。

 11ページ



インストールする

お使いのパソコンで、本製品を使用できるようにするためのドライバをインストールします。

 12ページ

取り付ける前に

本製品をつなぐ前に**実行用ディスク**を作り、パソコンの環境を確認する必要があります。

●実行用ディスクを作る

本製品に添付されているサポートソフトディスクは、必ず以下の手順でバックアップを取り、バックアップディスクの方を実行用ディスクとしてお使いください。ここでは、実行用ディスクの作り方を説明します。



サポートソフトディスクを破損した場合の修理は有償です。必ずバックアップを取り、サポートソフトディスクは大切に保管してください。

- 1 1.44MBでフォーマット済みの空きフロッピーディスク(3.5インチ2HD)を用意します。
- 2 サポートソフトディスクを書き込み禁止にします。
- 3 [マイコンピュータ]の[3.5インチ FD]を右クリックし、[ディスクのコピー]を選択します。
- 4 メッセージにしたがって、バックアップを取ります。
サポートソフトディスクと空きのフロッピーディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、バックアップを取ります。

●パソコン環境を確認する

チェック 1 プラグ&プレイに関して

本製品はプラグ&プレイ (Plug and Play) に対応していますのでリソース（「割り込み (IRQ)」, 「I/Oポートアドレス」, 「メモリアドレス」）は自動的に設定されます。パソコンにセットする際に特別な設定は必要ありません。




- ・使用可能な「割り込み (IRQ)」の数は限られています。このため、機器を多く使用しようとすると、空いている番号がなくなり重複が避けられない場合があります。この場合は、重複の避けられない機器とは併用はできません。それらの機器を必要に応じて使い分けてください。また、「I/Oポートアドレス」の使用状況の確認等については、各機器の取扱説明書を参照してください。
- ・本製品が使用するリソースを手動で変更することはできません。（本製品が使用するリソースは、起動時に表示されます。）
- ・パソコンメーカーにより、マザーボードのBIOSアップデートサービスを行っている場合があります。なるべく新しいBIOSをご使用ください。詳しくは、お使いの各パソコンメーカーにお問い合わせください。

取り付ける前に

チェック 2 OSについて

パソコン起動用のハードディスクに使用したい各OSがインストールされていることをご確認ください。インストールされていない場合は、各OSをインストールしておいてください。



- ・本製品に起動用ハードディスクを接続する場合は、以下の①～④の手順で行ってください。
 - ①起動用ハードディスクをパソコン本体のIDEコネクタに接続します。
 - ②パソコン本体のIDEコネクタに接続したCD-ROMドライブよりOSをインストールします。（インストール済みの場合は不要）
 - ③本製品のサポートソフトをインストールします。（ 12ページ以降）
 - ④パソコン本体に接続した起動用ハードディスクを本製品に接続します。
- ・ハードディスクへのOSの再セットアップなどに関する「お問い合わせ」「保証」「サポート」は、弊社およびパソコン本体メーカーではお受け致しかねます。ご了承ください。

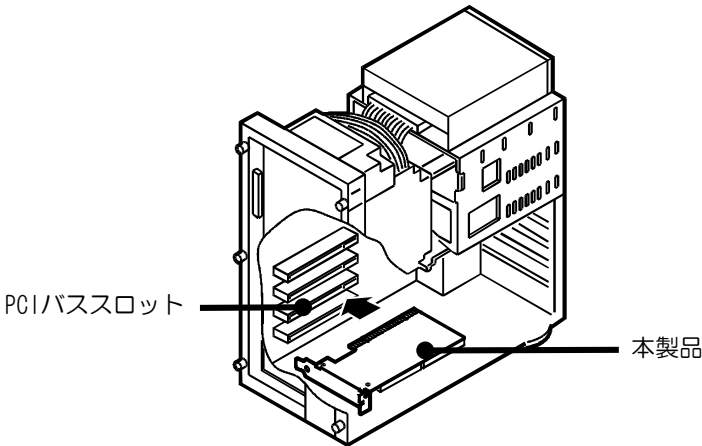
チェック 3 SCSIインターフェイスを使う場合

PCIバス用SCSIインターフェイスボードを使用する場合は、SCSIインターフェイスのセットアップ（取り付けおよびドライバのインストールなど）をあらかじめ終了しておいてください。

取り付ける

本製品をパソコンに取り付けます。

- 1 パソコンの周辺機器および本体の電源を切り、パソコンの電源ケーブルをコンセントから抜きます。
- 2 パソコンのカバーを外します。
取り外し方法はパソコン本体の取扱説明書をご覧ください。
- 3 PCIバススロットに本製品をつなぎます。
PCIスロットカバーを止めているネジを外し、PCIスロットカバーを取り外します。PCIバスのスロットに本製品を取り付け、取り外したネジで固定します。（PCIバススロットの位置などについてはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。）








あとでIDE機器をつなぐため、ここでパソコンのカバーを戻す必要はありません。IDE機器をつないだあとにお戻しください。

以上で取り付けは終了です。

インストールする

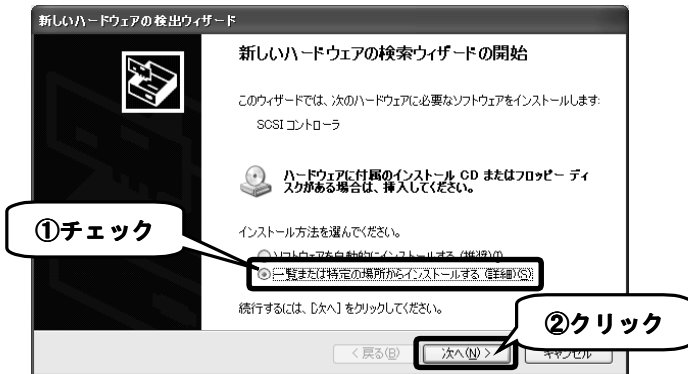
本製品を使えるようにするために、サポートソフトをインストールします。インストール方法はOSにより異なります。以下の必要なページのみご覧ください。

Windows XP	 13ページ
Windows 2000	 18ページ
Windows Me	 23ページ
Windows 98	 27ページ
Windows 95	 32ページ

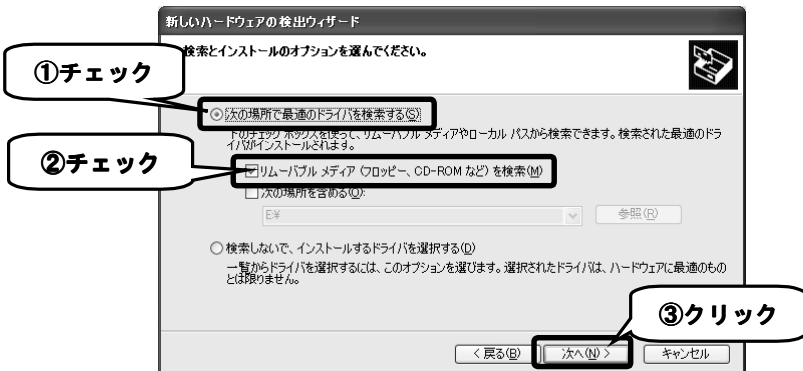
Windows XP

●インストールする

- 1 Windows XPを起動します。
自動的に画面が表示されます。
- 2 [一覧または特定の…]をチェックして [次へ] ボタンをクリックします。



- 3 サポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 4 [次の場所で最適の…]、[リムーバブルメディア…]をチェックして [次へ] ボタンをクリックします。



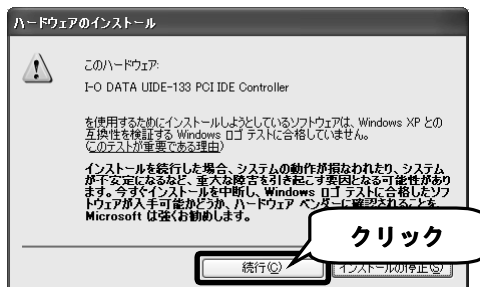
インストールする

5 [次へ]ボタンをクリックします。



6 以下の画面が表示される場合は[続行]ボタンをクリックします。

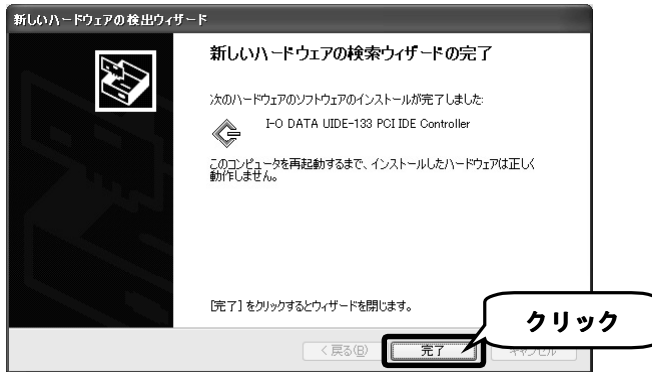
以下の画面が表示されない場合は、手順 7へ進みます。



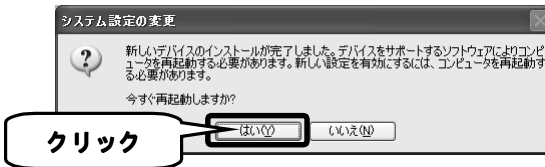
弊社製ソフトウェアが確認された時点でマイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、特に問題ありませんのでそのまま続行します。

→マイクロソフト社は、WHQLという組織においてパソコン本体や周辺機器などを対象に認定手続きを実施しております。このたびお買い上げいただいた製品は現時点では認定を受けておりませんが、問題なくご利用いただけます。

7 [完了]ボタンをクリックしてサポートソフトを抜きます。



8 [はい]ボタンをクリックしてパソコンを再起動します。



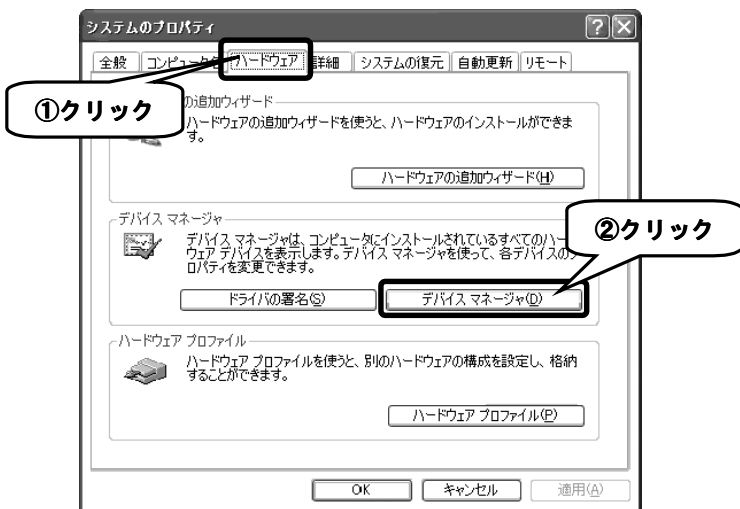
以上でドライバのインストールは終了です。次ページへお進みください。

●確認する

- 1 [スタート] をクリックし、[マイコンピュータ]を右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。



- 2 [ハードウェア]タブをクリックして[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



- 3** [SCSIとRAIDコントローラ]をダブルクリックして[I-O DATA UIDE-133 PCI IDE Controller]が表示されることを確認します。



上記が表示されていれば本製品は使用できます。
Windowsを終了しパソコンの電源を切ってください。

“!”マークが表示されている

【困った時には】の
57ページをご覧ください。

このあと、37ページをご覧ください。

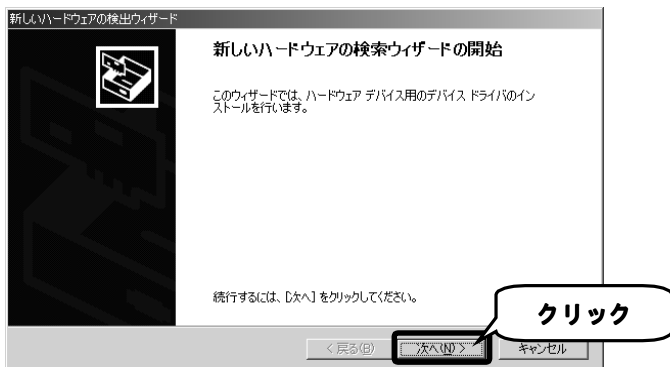
Windows 2000

●インストールする

1 Windows 2000を起動します。

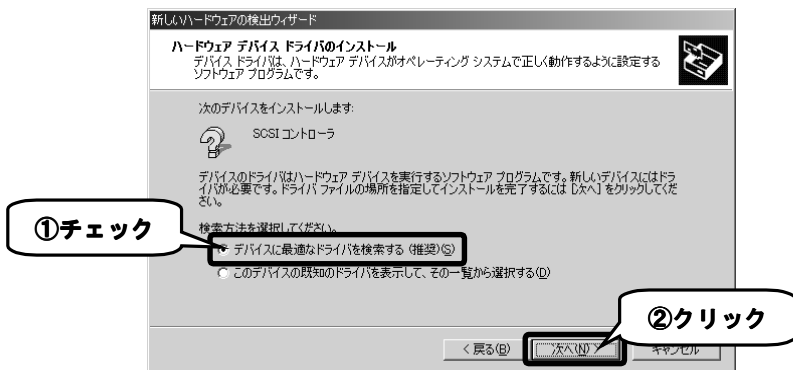
自動的に画面が表示されます。

2 [次へ] ボタンをクリックします。



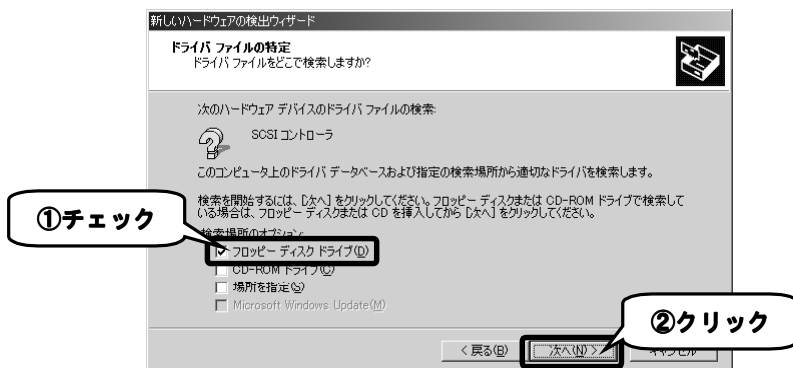
3 サポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットします。

4 [デバイスに最適な...] をチェックして[次へ] ボタンをクリックします。

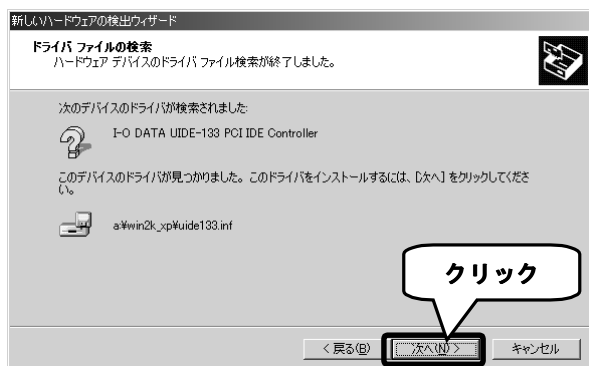


5 [フロッピーディスクドライブ]のみをチェックして[次へ]ボタンをクリックします。

他にチェックが付いている場合は、外します。

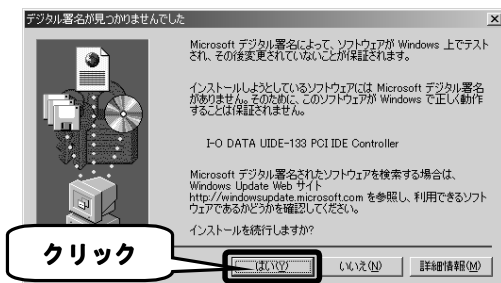


6 [次へ]ボタンをクリックします。



7 以下の画面が表示される場合は[はい]ボタンをクリックします。

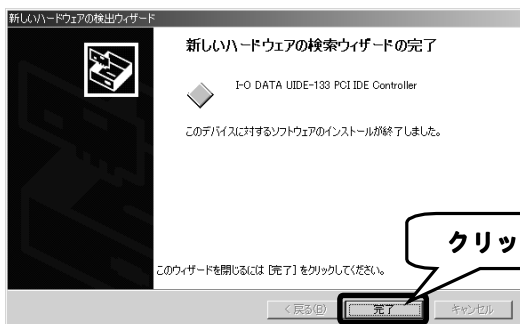
以下の画面が表示されない場合は、手順8へ進みます。



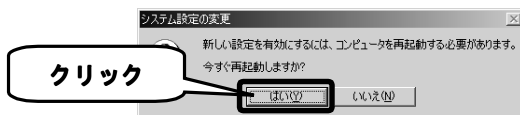
弊社製ソフトウェアが確認された時点でマイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、特に問題ありませんのでそのまま続行します。

→マイクロソフト社は、WHQLという組織においてパソコン本体や周辺機器などを対象に認定手続きを実施しております。このたびお買い上げいただいた製品は現時点では認定を受けておりませんが、問題なくご利用いただけます。

8 [完了]ボタンをクリックしてサポートソフトを抜きます。



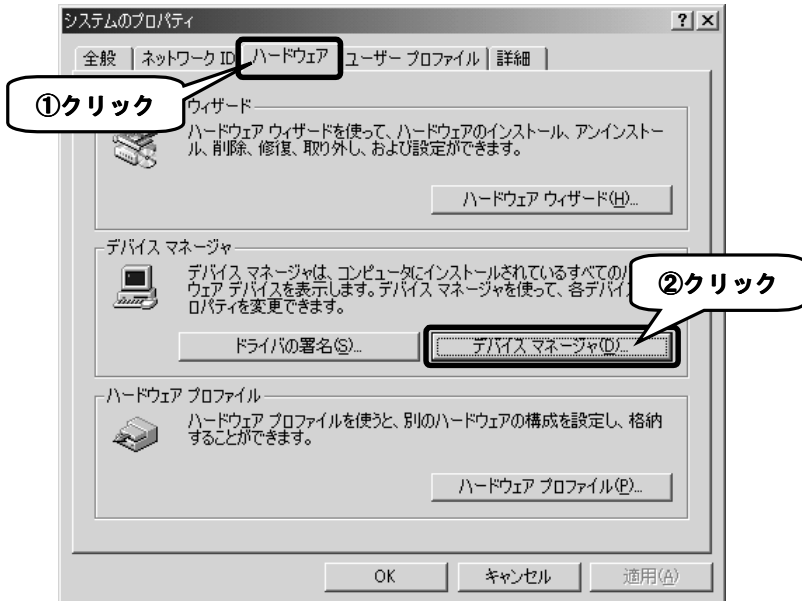
9 [はい]ボタンをクリックしてパソコンを再起動します。



以上でドライバのインストールは終了です。次ページへお進みください。

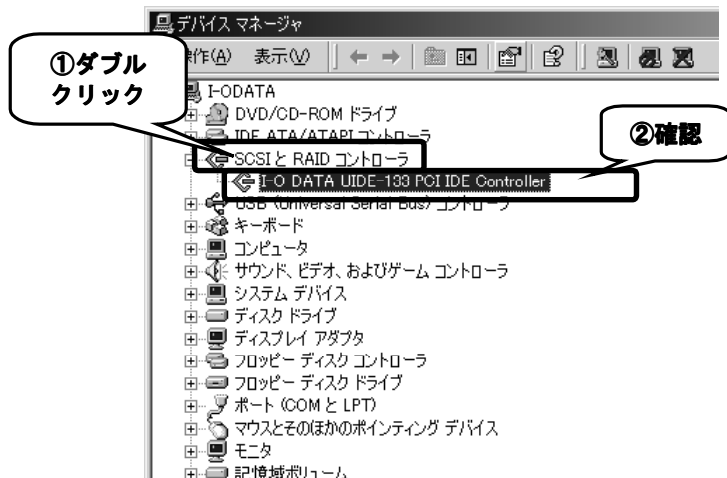
●確認する

- 1 [マイコンピュータ] アイコンを右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。
- 2 [ハードウェア]タブをクリックして[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



インストールする

- 3** [SCSIとRAIDコントローラ]をダブルクリックして[I-O DATA UIDE-133 PCI IDE Controller]が表示されることを確認します。



上記が表示されていれば本製品は使用できます。

Windowsを終了しパソコンの電源を切ってください。

“!”マークが表示されている

【困った時には】の
57ページをご覧ください。

このあと、37ページをご覧ください。

Windows Me**●インストールする**

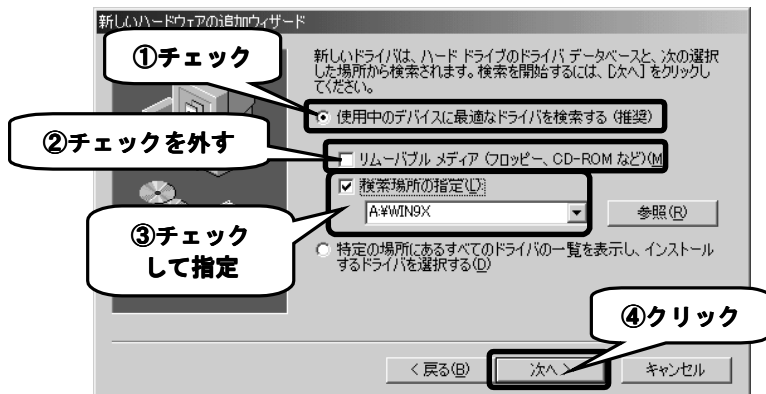
- 1 **Windows Meを起動します。**
自動的に画面が表示されます。
- 2 **[ドライバの場所を指定する…]をチェックして [次へ] ボタンをクリックします。**



- 3 **サポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットします。**

4 検索場所を指定します。

- ① [使用中のデバイスに…] をチェックします。
- ② [リムーバブルメディア…] のチェックを外します。
- ③ [検索場所の指定] をチェックしてフロッピーディスクドライブの WIN9X フォルダを指定します。
例) A:¥WIN9X (フロッピーディスクドライブがAドライブの場合)
- ④ [次へ] ボタンをクリックします。

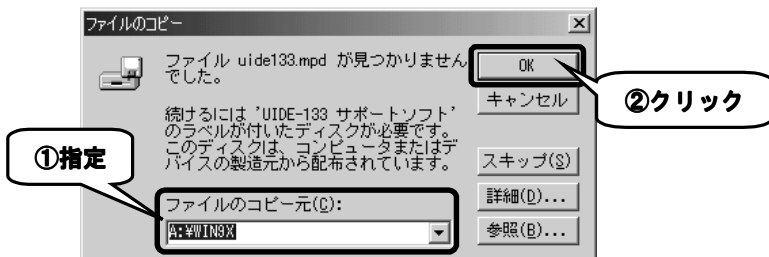


5 [次へ] ボタンをクリックします。



- 6 以下の画面が表示された場合は、[ファイルのコピー元]でフロッピーディスクドライブのWIN9Xフォルダを指定して[OK]ボタンをクリックします。

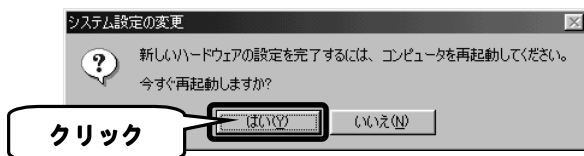
例) A:¥WIN9X (フロッピーディスクドライブがAドライブの場合)



- 7 [完了]ボタンをクリックしてサポートソフトを抜きます。



- 8 [はい]ボタンをクリックしてパソコンを再起動します。

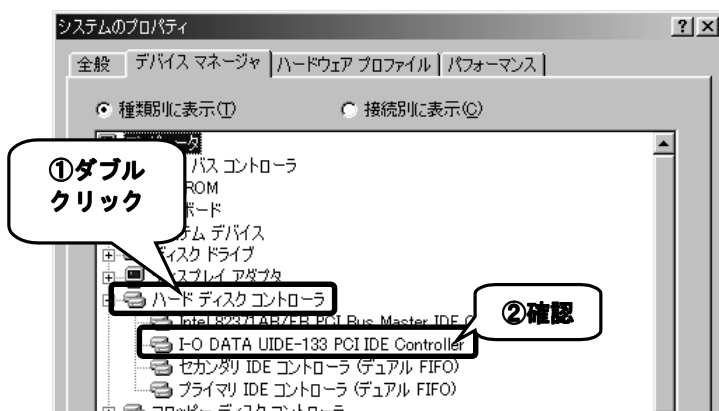


以上でドライバのインストールは終了です。次ページへお進みください。

インストールする

●確認する

- 1 [マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。
- 2 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 3 [ハードディスクコントローラ]をダブルクリックして[I-O DATA UIDE-133 PCI IDE Controller]が表示されることを確認します。



上記が表示されていれば本製品は使用できます。

Windowsを終了しパソコンの電源を切ってください。

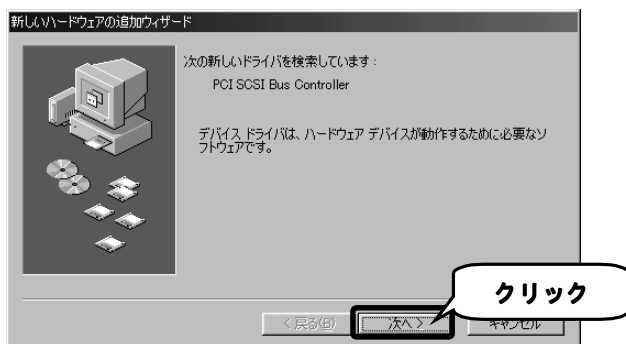
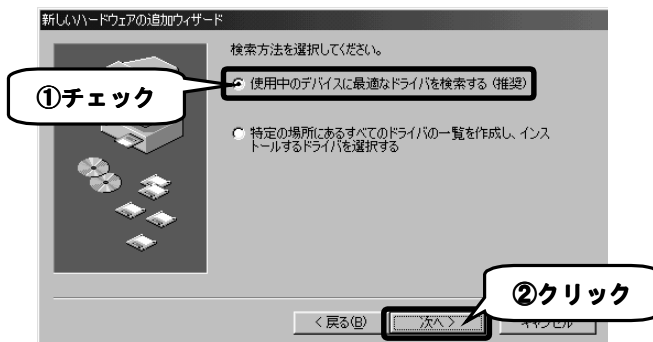
“!”マークが表示されている

【困った時には】の
57ページをご覧ください。

このあと、37ページをご覧ください。

Windows 98**●インストールする****1 Windows 98を起動します。**

自動的に画面が表示されます。

2 [次へ] ボタンをクリックします。**3 [使用中のデバイスに...] をチェックして [次へ] ボタンをクリックします。**

インストールする

4 サポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットします。

5 [検索場所の指定]をチェックしてフロッピーディスクドライブのWIN9Xフォルダを指定し、[次へ] ボタンをクリックします。

例) A:¥WIN9X (フロッピーディスクドライブがAドライブの場合)

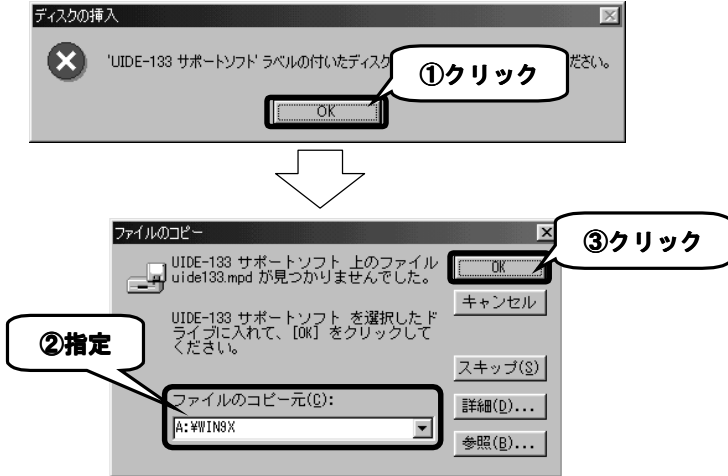


6 [次へ] ボタンをクリックします。



- 7 以下の画面が表示された場合は、[OK]ボタンをクリックし、[ファイルのコピー元]でフロッピーディスクドライブのWIN9Xフォルダを指定して[OK]ボタンをクリックします。

例) A:¥WIN9X (フロッピーディスクドライブがAドライブの場合)

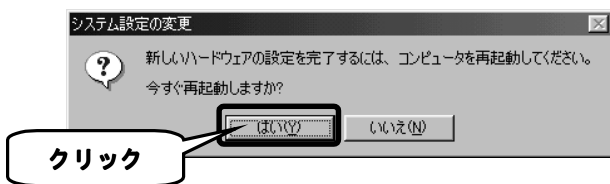


- 8 [完了]ボタンをクリックしてサポートソフトを抜きます。



インストールする

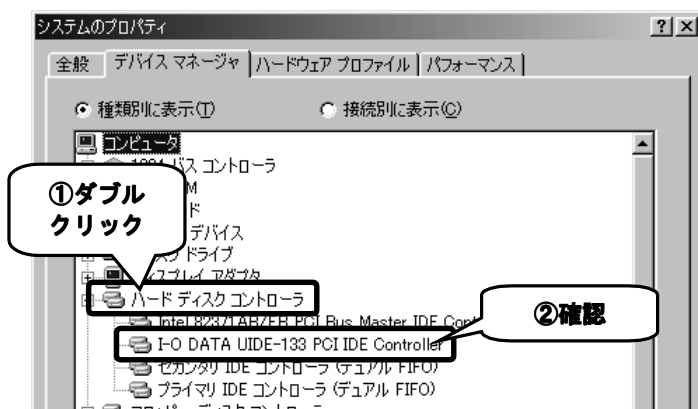
9 [OK] ボタンをクリックしてパソコンを再起動します。



以上でドライバのインストールは終了です。次ページへお進みください。

●確認する

- 1 [マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。
- 2 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 3 [ハードディスクコントローラ]をダブルクリックして[I-O DATA UIDE-133 PCI IDE Controller]が表示されることを確認します。



上記が表示されていれば本製品は使用できます。

Windowsを終了しパソコンの電源を切ってください。

“!”マークが表示されている

【困った時には】の
57ページをご覧ください。

このあと、37ページをご覧ください。

Windows 95

●インストールする

1 Windows 95を起動します。

自動的に画面が表示されます。

2 [次へ]ボタンをクリックします。



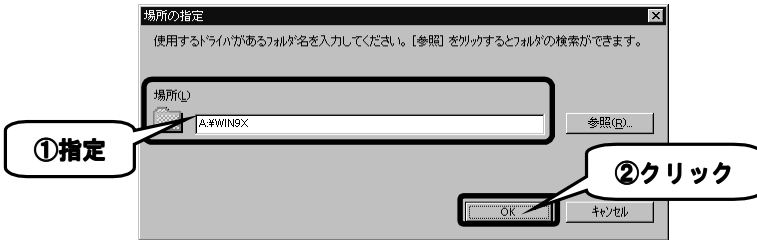
3 [場所の指定]ボタンをクリックします。



4 サポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットします。

5 [場所]でフロッピーディスクドライブのWIN9Xフォルダを指定して[OK]ボタンをクリックします。

例) A:¥WIN9X (フロッピーディスクドライブがAドライブの場合)



6 [I-0 DATA UIDE-133 PCI IDE Controller]と表示されていることを確認して[完了]ボタンをクリックします。

ファイルのコピーが始まります。

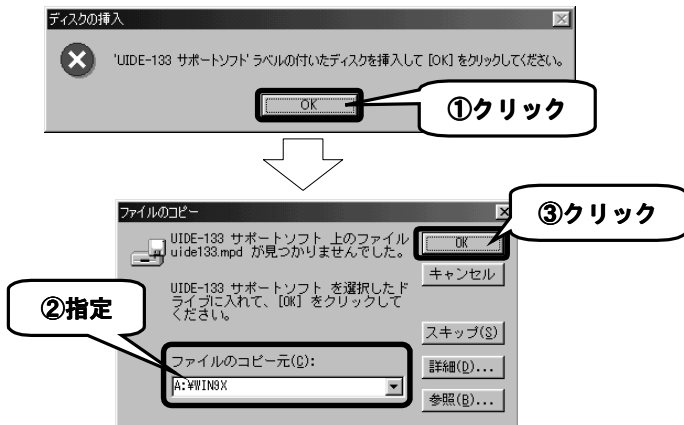
[I-0 DATA UIDE-133 PCI IDE Controller]と表示されていない場合は、[戻る]ボタンをクリックしてサポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットしてください。



インストールする

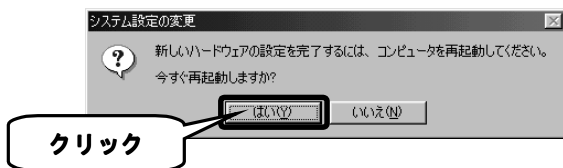
- 7 以下の画面が表示された場合は、[OK] ボタンをクリックして[ファイルのコピー元]でフロッピーディスクドライブのWIN9Xフォルダを指定し、[OK] ボタンをクリックします。

例) A:¥WIN9X (フロッピーディスクドライブがAドライブの場合)



- 8 サポートソフトを抜きます。

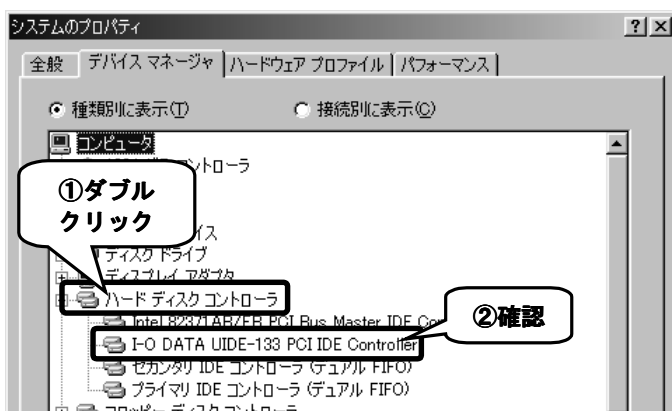
- 9 [OK] ボタンをクリックしてパソコンを再起動します。



以上でドライバのインストールは終了です。次ページへお進みください。

●確認する

- 1 [マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。
- 2 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 3 [ハードディスクコントローラ]をダブルクリックして[I-O DATA UIDE-133 PCI IDE Controller]が表示されることを確認します。



上記が表示されていれば本製品は使用できます。

Windowsを終了しパソコンの電源を切ってください。

“!”マークが表示されている

【困った時には】の
57ページをご覧ください。

このあと、37ページをご覧ください。

MEMO

使ってみよう

IDE機器の設定を行い、本製品につなぎます。


IDE機器を接続 する前に

本製品にIDE機器を接続する前の設定を
します。

 38ページ

IDE機器を接続する

本製品にIDE機器を接続します。

 41ページ

IDE機器の確認

本製品に接続したIDE機器が正常に使え
ることを確認します。

 47ページ

IDE機器を接続する前に

本製品に接続するIDE機器の設定について説明します。



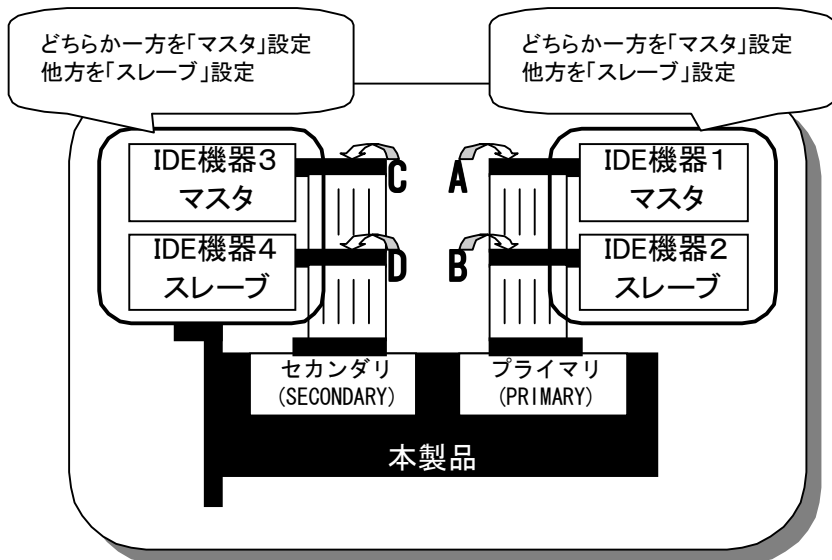
本製品にIDE機器を接続する際は、パソコン本体にIDE機器を設置するスペースおよび電源が必要です。

IDE機器のジャンパ設定

ご使用の環境により、本製品に接続するIDE機器のジャンパスイッチの設定（マスタ/スレーブまたはシングル）を変更する必要があります。

以下を参照し、必要に応じてIDE機器の設定を変更してください。（ジャンパスイッチの詳細については各IDE機器の取扱説明書をご覧ください。）

▼【マスタ/スレーブ設定例】



《本製品にIDE機器を3台以上接続する際のご注意》

3台以上のIDE機器を接続するには、別売オプションの弊社IDEフラットケーブルが必要になります。（詳細は《別売オプション品》98ページを参照してください。）



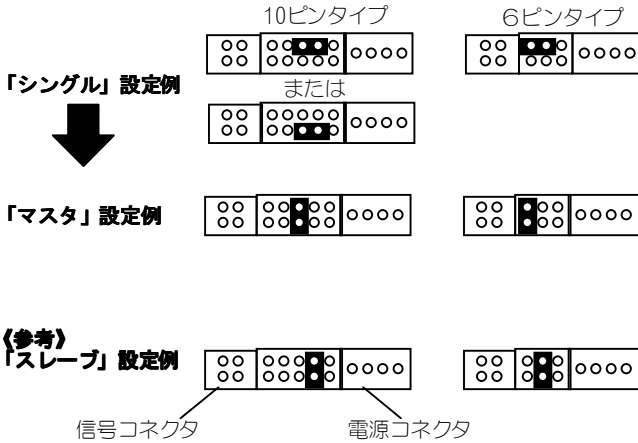
《ウェスタンデジタル社製ハードディスクを使用する場合のご注意》

接続するハードディスクに「WESTERN DIGITAL」と表記されている場合は、「シングル」にします。

※スレーブに他のIDE機器を接続するときは「マスタ」にします。

《Western Digital社製ハードディスクの設定例》

※ジャンパ設定についてはハードディスク本体の取扱説明書にてご確認ください。



IDE機器を接続する前に

該当するIDE機器の台数で位置を確認し、設定してください。設定が終わりましたら次ページへお進みください。

●IDE機器を 1台 接続する場合

接続位置	【マスタ/スレーブ設定例】（38ページ）の A
ジャンプスイッチ 設定	「マスタ」にしてください。

●IDE機器を 2台 接続する場合

接続位置	【マスタ/スレーブ設定例】（38ページ）の A B
ジャンプスイッチ 設定	パソコン本体の認識を優先させたい方を「マスタ」にもう一方を「スレーブ」にしてください。 【本製品に接続するIDE機器の優先順位】（93ページ）をご参照ください。

●IDE機器を 3台 接続する場合

接続位置	【マスタ/スレーブ設定例】（38ページ）の A B C
ジャンプスイッチ 設定	●プライマリ（ A B ）に接続するIDE機器は、パソコン本体の認識を優先させたい方を「マスタ」、もう一方を「スレーブ」にしてください。 ●セカンダリ（ C ）に接続するIDE機器は、「マスタ」にしてください。 【本製品に接続するIDE機器の優先順位】（93ページ）をご参照ください。

●IDE機器を 4台 接続する場合

接続位置	【マスタ/スレーブ設定例】（38ページ）の A B C D
ジャンプスイッチ 設定	プライマリ、セカンダリ各々で、パソコン本体の認識を優先させたい方を「マスタ」にもう一方を「スレーブ」にしてください。 【本製品に接続するIDE機器の優先順位】（93ページ）をご参照ください。

IDE機器を接続する



《接続する際のご注意》

- ・増設用のハードディスクを起動用としてご使用になる場合は、環境の移行が完全に終了するまで、必ず元の環境を残してください。
- ・IDE機器は、ご使用になるパソコンおよびOSに対応していることをご確認の上、接続してください。

接続方法

1 本製品にIDEフラットケーブルを接続します。

付属のIDEフラットケーブルの青いコネクタを本製品のプライマリコネクタに接続します。Ultra ATA/133対応ケーブルを使用する場合は、必ず青いコネクタを本製品に接続してください。

2 IDEフラットケーブルにIDE機器を接続します。

電源ケーブルは、パソコン本体に付属のものをお使いください。接続方法については、お使いのIDE機器の取扱説明書を参照してください。

(43ページからの[接続例①～⑤]もご参考ください。)



- ・本製品にIDE機器を1台だけ接続した場合、IDEフラットケーブルの空きのコネクタが各種コネクタ類に接触しないようにしてください。
- ・3台以上のIDE機器を接続するには、別売オプションの弊社IDEフラットケーブルが必要になります。(詳細は《別売オプション品》98ページをご覧ください。)

3 接続終了後、パソコンを元に戻します。

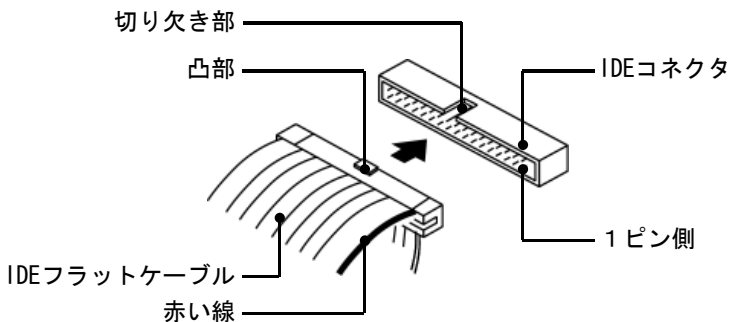
取り外したケーブル類やカバーなどを元に戻します。

ケーブルにコネクタを差し込むときは、ケーブルの向きにご注意ください。

逆向きでは差し込めないようになっていますが、無理に差し込もうとすると、コネクタを破損する恐れがあります。コネクタを差し込んだり抜いたりする場合は、ピンが折れないようにコネクタをまっすぐにして行ってください。ピンが折れると正常に動作しません。

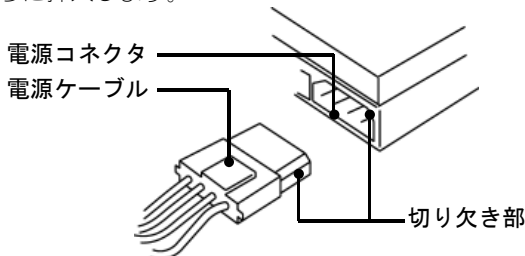
●IDEフラットケーブル

IDEフラットケーブルのコネクタの中央にある凸部が、IDEコネクタの切り欠き部と合うように挿入します。（中央の凸部がない場合は、赤い線とコネクタの1ピンの向きを合わせてください。）



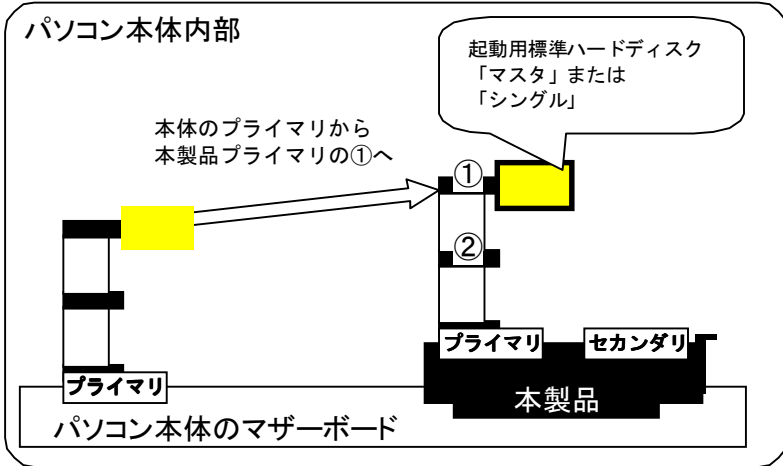
●電源ケーブル

電源ケーブルのコネクタの切り欠き部と、電源コネクタの切り欠き部が合うように挿入します。

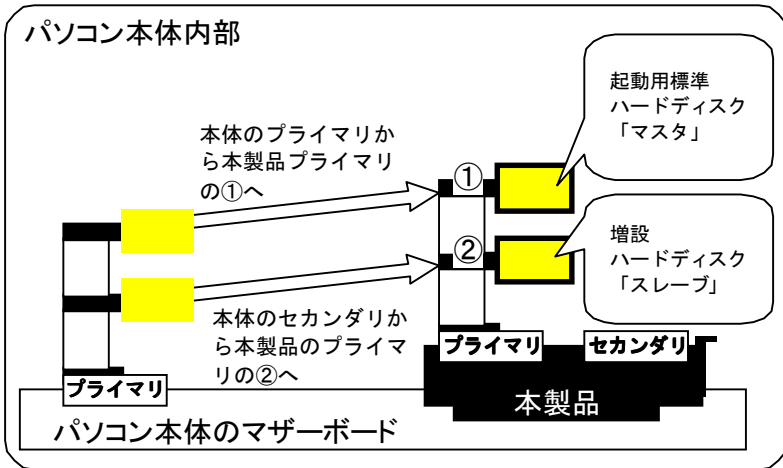


《接続例①》標準ハードディスクを本製品に 接続する場合

▼増設ハードディスクがない場合



▼増設ハードディスクがある場合





《接続例①》の増設ハードディスクが

ある場合に関する注意

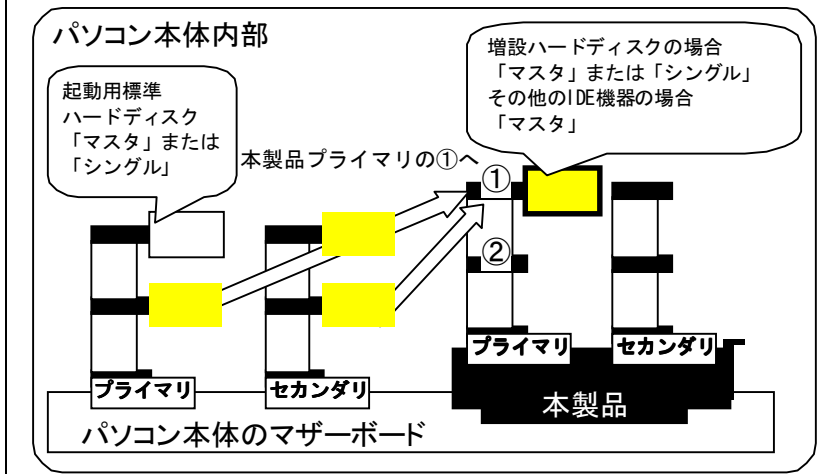
本製品にハードディスクを接続する際にドライブ名（優先順位）が変わらないように接続してください。

ドライブ名が変更されると正常に起動しなくなります。

（【ドライブの割り当て順位について】（94ページ）もご覧ください。）

- ① 接続するIDE機器のジャンプスイッチの設定を確認してください。本製品接続のハードディスクは「プライマリマスタ」→「プライマリスレーブ」→「セカンダリマスタ」→「セカンダリスレーブ」の順にドライブ名が割り当てられます。
- ② 標準ハードディスクを本製品に接続する場合は、必ず増設ハードディスクも本製品に接続してください。

《接続例②》標準ハードディスク以外を本製品に 接続する場合





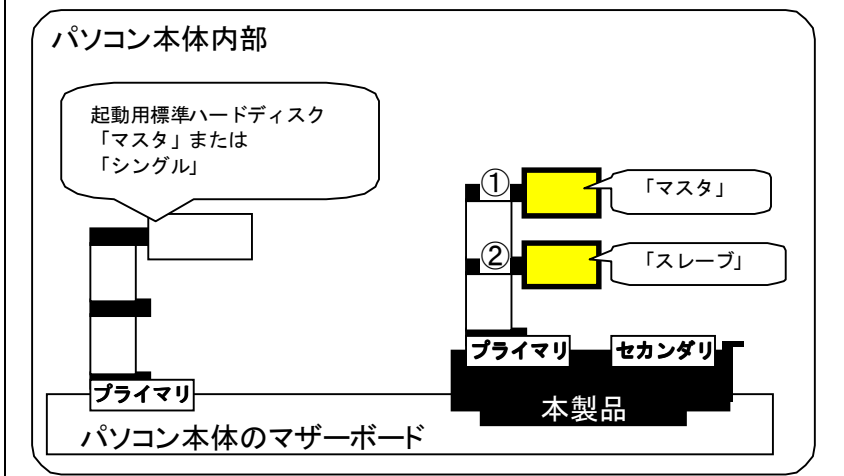
以下の《接続例③～⑤》に関する注意

新たに購入されたIDE機器を接続する場合と、すでにパソコン本体のIDEコネクタに接続されているIDE機器（起動用標準ハードディスクを除く）を接続する場合に共通の例です。

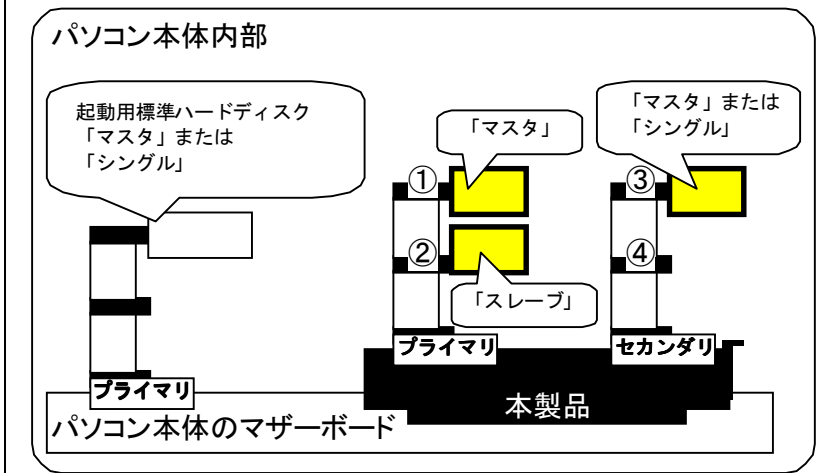
IDE機器の「マスタ」「スレーブ」設定を十分確認の上、接続してください。

また、本製品に3台以上のIDE機器を接続する場合は、別売オプションケーブルが必要です。（98ページ参照）

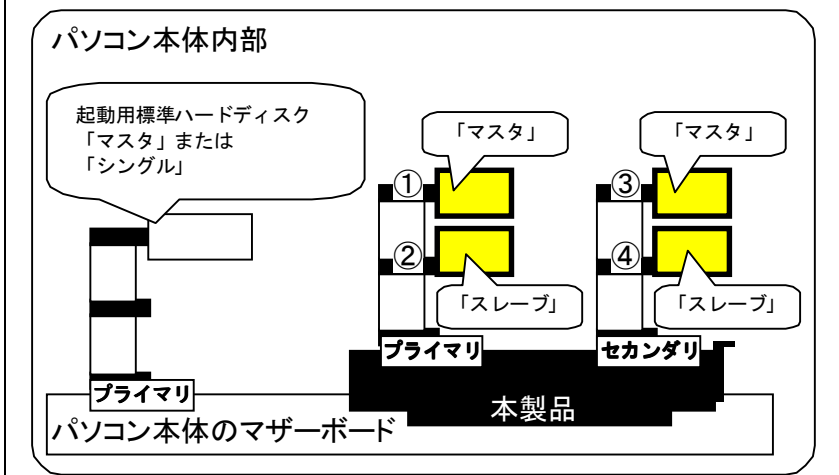
《接続例③》標準ハードディスク以外を2台本製品に接続する場合



《接続例④》標準ハードディスク以外を3台本製品に 接続する場合



《接続例⑤》標準ハードディスク以外を4台本製品に 接続する場合



IDE機器の確認

デバイススキャン

本製品を取り付け、IDE機器を接続したら、パソコン本体の電源を入れてください。本製品は電源投入直後（Windowsが起動する前）に接続機器をチェックし、下記の「表示メッセージ例」のように表示します。

これを「デバイススキャン」と呼びます。

接続したIDE機器がすべて認識されているか、確認してください。

デバイススキャンで
認識されない

【困った時には】（58ページ）
をご覧ください。

「表示メッセージ例」（表示内容は接続する機器により異なります。）

```
Press [F1] or [F10] To Issue Setup Utility...      (← ①)
ROM Address   : CC00h                               (← ②)
IRQ Number    : 9                                   (← ③)
Prim. MasIDE  : --*--                               (← ④)
Prim. SlvIDE  : ASUS CD-S500/A <ATAPI DEVICE>      (← ⑤)
Seco. MasIDE  : QUANTUN FIREBALLP AS30.0< Fixed HDD > UDMA100 (← ⑥)
Seco. SlvIDE  : --*--                               (← ⑦)
Shadow INT13H Installed..                          (← ⑧)
```

番号	表示内容	補足説明
①	本製品のBIOSセットアップ画面の起動方法について	[F1]キーか[F10]キーでBIOS設定画面を表示します。（「BIOS設定画面」については68ページ【BIOSの設定】を参照）
②	本製品が使用するROMアドレス	上記例ではCC00hを使用しています。
③	本製品が使用するIRQ番号	上記例ではIRQ9を使用しています。
④	本製品のプライマリコネクタに接続のマスタIDE機器	次ページの「接続機器の表示」参照

番号	表示内容	補足説明
⑤	本製品のプライマリコネクタに接続のスレーブIDE機器	下記の「接続機器の表示」参照
⑥	本製品のセカンダリコネクタに接続のマスタIDE機器	下記の「接続機器の表示」参照
⑦	本製品のセカンダリコネクタに接続のスレーブIDE機器	下記の「接続機器の表示」参照
⑧	ハードディスク接続の有無	本製品にハードディスクが1台でも接続されている場合に表示されます。 (例えば、CD-ROMドライブのみ接続されている場合は表示されません。)

「接続機器の表示」

本製品に接続しているIDE機器の表示（表の④～⑦）の意味

Prim. MasIDE : ASUS CD-S500/A <ATAPI DEVICE>

接続位置	デバイス名など	デバイスタイプ・種類
------	---------	------------

■ 接続位置

省略形	意味
Prim.	プライマリ
Seco.	セカンダリ
MasIDE	マスタ
SlvIDE	スレーブ

例) 「Prim. MasIDE」とは
本製品のプライマリコネクタの
マスタドライブとして接続さ
れているIDE機器をさします。

■ デバイス名など

接続しているIDE機器のベンダIDやプロダクトIDなどを表示します。

※接続している機器によっては表示されないことがあります。

■ デバイスタイプ・種類

デバイスタイプ	種類	意味
Fixed HDD	HardDisk	ハードディスク
ATAPI Device	CD-ROM	CD-ROMなど

(機器が接続されていない場合は、“--*--”と表示されます。)

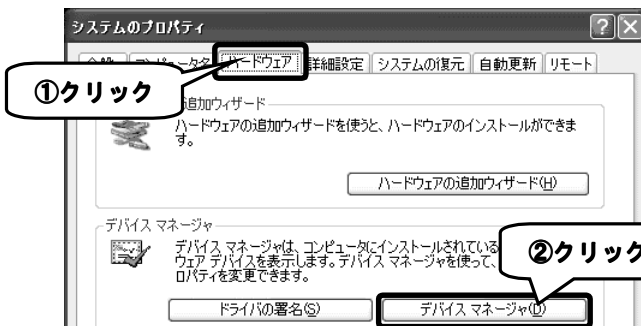
接続終了後の確認

●Windows XPの場合

- 1 [スタート] をクリックし、[マイコンピュータ]を右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。



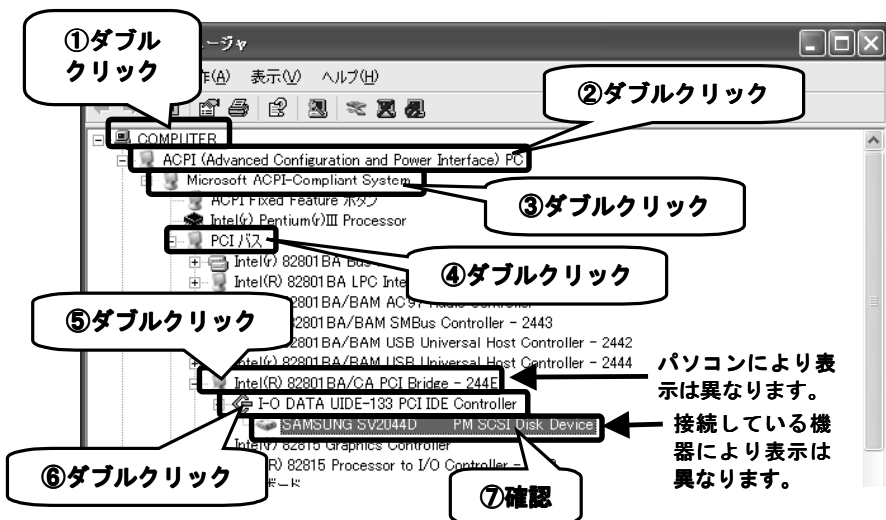
- 2 [ハードウェア]タブをクリックして[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



3 [表示]→[デバイス(接続別)]を選択します。

4 [COMPUTER]→[ACPI (Advanced…)]→
[Microsoft ACPI-Compliant System]→[PCIバス]→
[Intel(R) 82801 BA/CA PCI Bridge-244E]*→
[I-O DATA UIDE-133 PCI IDE Controller]を順にダブルク
リックして本製品に接続している各IDE機器が表示される
ことを確認します。

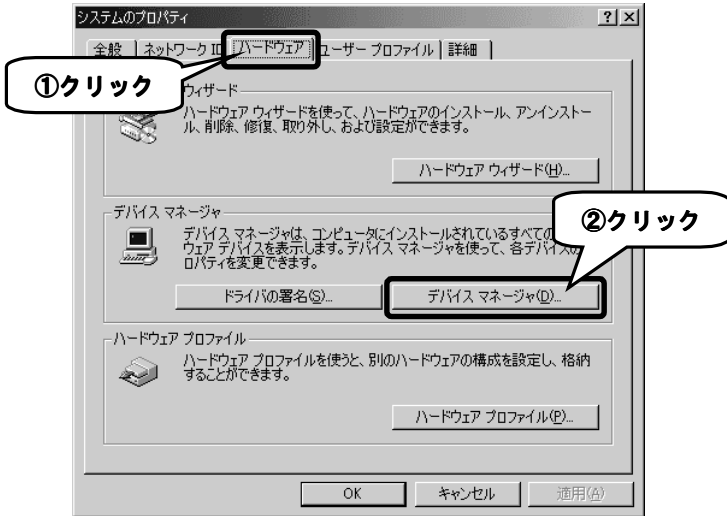
※表示はご使用のパソコンにより異なる場合があります。



ハードディスクを接続した場合は54ページ【ハードディスクのフォーマットについて】をご覧ください。

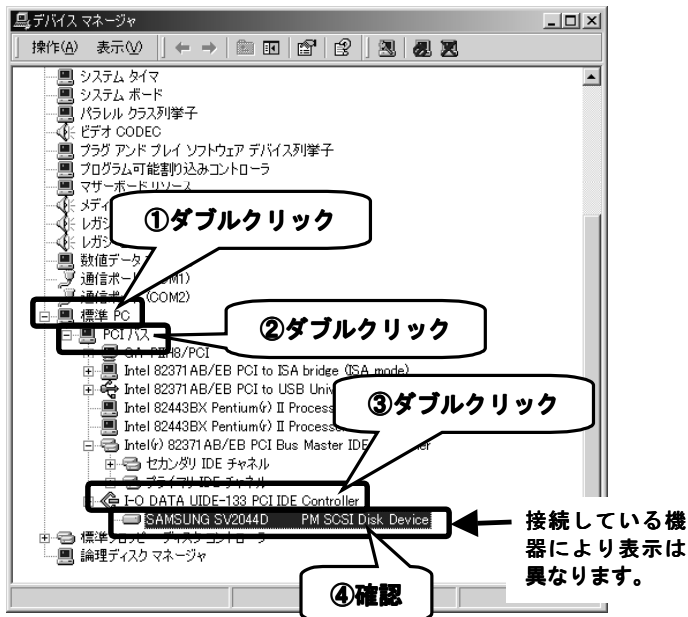
●Windows 2000の場合

- 1 [マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。
- 2 [ハードウェア]タブをクリックして[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



- 3 [表示]→[デバイス(接続別)]を選択します。

- 4 [標準PC] → [PCIバス] の [I-O DATA UIDE-133 PCI IDE Controller] をダブルクリックして本製品に接続している各IDE機器が表示されることを確認します。



ハードディスクを接続した場合は54ページ【ハードディスクのフォーマットについて】をご覧ください。

●Windows Me、Windows 98、Windows 95の場合

- 1 [マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。
- 2 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 3 [接続別に表示]をチェックします。
- 4 [プラグアンドプレイBIOS]→[PCIバス]の[I-O DATA UIDE-133 PCI IDE Controller]をダブルクリックして本製品に接続している各IDE機器が表示されることを確認します。



ハードディスクを接続した場合は54ページ【ハードディスクのフォーマットについて】をご覧ください。

ハードディスクのフォーマットについて

フォーマット済みのハードディスクの場合 は、本製品に接続してそのままご使用になれます。

フォーマットされていないハードディスクの場合（購入後、すぐに本製品に接続した場合）や **再フォーマット** を行う場合には、ハードディスクの取扱説明書をご覧になりフォーマットしてください。



フォーマットを行う場合は、パソコンに標準装備のハードディスクと間違わないようにご注意ください。

ふろく

必要に応じてお読みください。


困った時には

トラブルが起こったときにご覧ください。

 56ページ


BIOSの設定

本製品のBIOS設定について説明します。

 68ページ


接続後にインストールする

本製品にハードディスクをつないだ後にOSをインストールする方法を説明します。

 74ページ

IDE/ATAPIについて

IDE/ATAPIの仕様について説明します。

 91ページ


用語解説

本書で使用している用語を説明します。

 96ページ

別売オプション品

別売オプション品を紹介します。

 98ページ

仕様

本製品の仕様です。

 99ページ

困った時には


本製品を使用していて異常があった場合をご覧ください。

状態	参照ページ
本製品取り付け後、パソコンが起動しない 本製品が動作しない また、デバイスマネージャで“！”マークがついている	57
パソコンの電源を入れても、デバイスマネージャが表示されない (本製品のBIOSが組み込まれない)	58
デバイスマネージャ時に機器名が表示されなかったり、OS上からも認識されない。またはハングアップする	59
デバイスマネージャでは本製品に接続しているIDE機器が表示されるが、本製品のBIOS設定画面で、接続しているIDE機器が表示されない	60
Windows起動時に「レジストリエラー」や「COMMAND.COMが見つからない」等のエラーが発生する	60
本製品を使用中に動作が不安定になる	61
ドライバのインストールに失敗し、再インストールしようとしたが、「新しいハードウェア」等の画面が表示されない [デバイスマネージャ] タブで、接続したIDE機器のプロパティを見ると「このデバイスには、ドライバファイルが必要でないか、または読み込まれていません。」と表示され、ドライバファイル名が表示されない	61
本製品に接続したハードディスクにアクセスしても、本体のハードディスクアクセスランプが点灯しない	62
PhoenixBIOSを搭載したパソコン(PC98-NXシリーズ、Dell Dimensionシリーズなど)の一部の機種で本製品以外にSCSIインターフェースを増設すると、画面が真っ暗なままパソコンが起動しなくなる	62
BIOSメニューで[Update Data & Exit]を実行すると、以下のメッセージが表示された(Windows Me/98/95の場合のみ)	62
FLASH ROM ERROR!!	

《参考：割り込みの空きを作る》

65ページ

**本製品取り付け後、パソコンが起動しない
本製品が動作しない
また、デバイスマネージャで“！”マークがついている**

原因1	本製品が正しく取り付けられていない。
対処	パソコンの電源を切り、再度起動用ハードディスクのIDEフラットケーブルや電源ケーブルが取り付けられているか、外れていないかを確認してください。また、IDE機器のジャンパ設定が間違っていないかも確認してください。
原因2	本製品のBIOSで使用しないように設定されている。
対処	BIOSで「Enable」（有効）にしてください。（  69ページ「Host Adapter BIOS」以下）
原因3	本製品に割り当て可能なIRQなどのリソースが不足している。
対処	65ページをご覧ください。
原因4	他のボードとリソースが重複している。
対処	プラグ&プレイに対応していないボードがある場合には、そのボードのリソース割り当てを変更してください。（リソースの変更方法に関しては、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。）リソース割り当ての変更ができない場合には、そのボードを取り外し、本製品と必要に応じて使い分けてください。 プラグ&プレイに対応していないボードがある場合には、そのボードのリソース割り当てを変更してください。（リソースの変更方法に関しては、そのボードやパソコン本体の取扱説明書を参照してください。）リソース割り当ての変更ができない場合には、そのボードを取り外し、本製品と必要に応じて使い分けてください。
原因5	他の周辺機器を拡張スロットに増設した。
対処	増設した周辺機器と割り込みやI/Oポートアドレスなどが重複している可能性があります。増設した周辺機器の取扱説明書を参照して、設定を確認してください。

困った時には

原因6 パソコン本体が故障した。


対処 本製品を取り外しても起動できない場合はパソコンが故障している可能性があります。パソコンのご購入先などにお問い合わせください。

パソコンの電源を入れても、デバイススキャンが表示されない (本製品のBIOSが組み込まれない)

原因1 本製品が正しく取り付けられていない。

対処 パソコンの電源を切り、再度起動用ハードディスクのIDEフラットケーブルや電源ケーブルが取り付けられているか、外れていないことを確認してください。また、IDE機器のジャンパ設定が間違っていないかも確認してください。

原因2 本製品のBIOSを使用しないように設定されている。

対処 BIOSで「Enable」(有効)にしてください。( 69ページ「Host Adapter BIOS」以下)

原因3 拡張ROMエリアの空きが不足している。

対処 拡張ROMエリアの領域を使用する他のボードの使用やプログラムの登録を中止したり、使用していない本体内蔵機能を切り離すなどを行って拡張ROMエリアの領域を開放してください。(パソコン本体(マザーボード)のBIOSセットアップメニューでそれぞれ設定してください。)
また、実装しているボードの取扱説明書も参照してください。)

原因3 他のボードとリソースが重複している。

対処 プラグ&プレイに対応していないボードがある場合には、そのボードのリソース割り当てを変更してください。(リソースの変更方法に関しては、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。)
リソース割り当ての変更ができない場合には、そのボードを取り外し、本製品と必要に応じて使い分けてください。

デバイススキャン時に機器名が表示されなかったり、OS上からも認識されない。またはハングアップする

原因1 IDE機器が正しく取り付けられていない。

対処 パソコンの電源を切り、IDE機器の接続ケーブル（IDEフラットケーブルや電源ケーブル）が外れていないか確認してください。

原因2 接続IDE機器のジャンプスイッチの設定に誤りがある。

対処 パソコンの電源を切り、【IDE機器のジャンプ設定】（38ページ）を参考に、各IDE機器のジャンプスイッチの設定を確認してください。

原因3 本製品のBIOS設定でIDE機器を認識しないように設定している。

対処 該当系列のデバイススキャンを「Enable」（有効）に設定してください。

（ 70ページ「Primary Master IDE Transfer Mode」以下）

原因4 バスマスターの設定が有効になっていない。

対処 本製品を取り外してから、パソコン本体（マザーボード）のBIOS設定メニューでPCIバスマスターを有効にしてください。（詳しくは、パソコン本体のマニュアルを参照するか、またはパソコンメーカーにお問い合わせください。）

原因5 パソコン本体のEnhanced IDEインターフェイスに接続しているIDE機器構成と、パソコン本体BIOSのIDE機器の認識設定が合っていない。

対処 パソコン本体BIOSのIDE機器の認識設定を機器構成に合った値に変更してください。

（例：ハードディスクをパソコン本体のEnhanced IDEインターフェイスから取り外した場合などは、BIOSでそのハードディスクに対して設定していた「USERの設定」を「AUTO」や「NONE」に変更）

困った時には

デバイススキャンでは本製品に接続しているIDE機器が表示されるが、本製品のBIOS設定画面で、接続しているIDE機器が表示されない

原因

本製品のデバイススキャンが完了する前に、[F1]キーか[F10]キーを押すと、BIOS設定に変わるタイミングが早すぎるために、接続しているIDE機器が認識されなくなります。

対処

本製品のデバイススキャン完了後（47ページ「表示メッセージ例」表示後）に、[F1]キーか[F10]キーを押すようにしてください。

Windows起動時に「レジストリエラー」や「COMMAND.COMが見つからない」等のエラーが発生する

原因


接続機器が対応しているデータ転送モードと本製品のBIOSで設定されているモードが一致していない。

対処

BIOS設定メニューの[ADAPTER SETUP]→[Transfer Mode]の項目を[AUTO]または[Ultra DMA mode1]（Ultra DMA転送方式モード1）に設定してお試しください。

本製品を使用中に動作が不安定になる

原因1 IDE機器の転送モードの「Ultra DMA mode2~4」を使用できない機種があります。

対処 転送速度を下げても（「Ultra DMA mode1」等に変えて）みてください。
（ 70ページ「Primary Master IDE Transfer Mode」以下）

原因2 PCIバススロットが不安定になっている。

対処 本製品を接続しているPCIバススロットの位置を変えてみてください。

ドライバのインストールに失敗し、再インストールしようとしたが、「新しいハードウェア」等の画面が表示されない

対処 **Windows XP/2000の場合**

[デバイスマネージャ]の「SCSIとRAIDコントローラ」下で「SCSIコントローラ」と表示されている場合はこれを削除して再起動します。

Windows Me/98/95の場合

[デバイスマネージャ]の「その他のデバイス」下で「PCI SCSI Bus Controller」と表示されている場合はこれを削除して再起動します。

【デバイスマネージャ】タブで、接続したIDE機器のプロパティを見ると「このデバイスには、ドライバファイルが必要でないか、または読み込まれていません。」と表示され、ドライバファイル名が表示されない

対処 “!” マークがない場合は正常です。そのままご利用ください。

困った時には

本製品に接続したハードディスクにアクセスしても、本体のハードディスクアクセスランプが点灯しない

対処 本製品に接続したハードディスクにアクセスしても、パソコン本体のハードディスクアクセスランプを点灯させることはできません。

PhoenixBIOSを搭載したパソコン(PC98-NXシリーズ、Dell Dimensionシリーズなど)の一部の機種で本製品以外にSCSIインターフェイスを増設すると、画面が真っ暗なままパソコンが起動しなくなる

対処 次ページからの手順にしたがってください。

BIOSメニューで[Update Data & Exit]を実行すると、以下のメッセージが表示された(Windows Me/98/95の場合のみ)

FLASH ROM ERROR !!

原因 BIOS ROMが破壊された状態になっています。

対処 72ページをご覧ください。AECFLASH.EXEでBIOS ROMを書き込んでください。

●PhoenixBIOSを搭載したパソコンをお使いの場合

※以下の画面例はPC98-NXシリーズの場合です。

(詳細は各パソコンメーカーにお問い合わせください。)

1 パソコン本体のBIOS設定メニューを起動します。

PC98-NXシリーズの場合：NECロゴが表示されている間に [F2] キーを押してください。その後、画面下部にセットアップに関する情報が表示されたら、[→] キーを押してください。



【BIOSの起動、設定について】

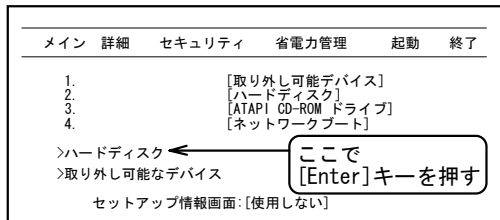
- ・ BIOSの起動方法および設定はご使用のパソコン本体によって異なります。詳細はパソコン本体に付属の取扱説明書をご参照になるか、パソコンメーカーにお問い合わせください。
- ・ BIOS設定メニューには日本語表記のもの、英語表記のものがあります。

2 BIOS設定メニューから「起動 (BOOT)」の項目を選択します。

「起動 (BOOT)」メニューに切り替わります。

3 「起動 (BOOT)」メニューから、[↑] [↓] キーで「ハードディスク (Hard Drive)」を選択し、[Enter] キーを押します。

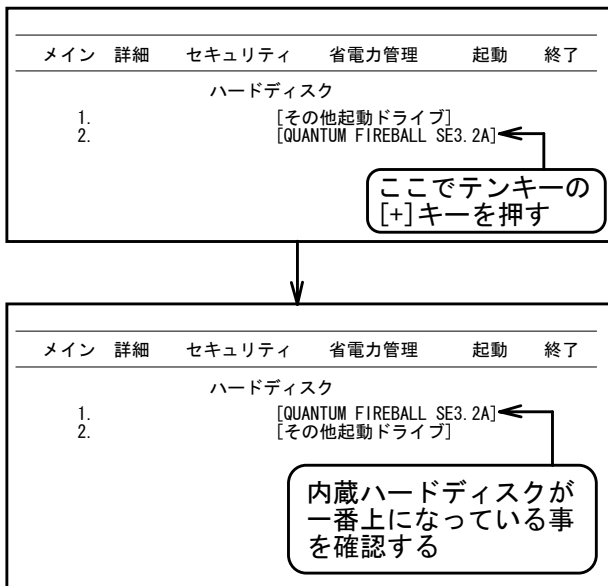
起動可能なドライブの一覧が表示されます。



困った時には

4 起動可能なドライブの一覧内で内蔵ハードディスクが最優先（一覧の一番上）になっていない場合は、一覧の一番上になるように設定します。

上に表示されているドライブほど優先順位が高くなります。



【内蔵ハードディスクについて】

- ・内蔵ハードディスクは [プライマリマスタ] などで表示される場合もあります。
- ・内蔵ハードディスクが最優先でないと内蔵ハードディスクからの起動はできません。

5 設定を保存してパソコン本体を再起動します。

【参考：割り込みの空きを作る】

本製品が正常に動作しない場合は、割り込みIRQの空き（以下の【割り込み(IRQ)の空きについて】参照）が無いことが原因の1つとして考えられます。



割り込み(IRQ)の空きについて

本製品はパソコン本体の割り込み（IRQ）を使用します。ただし、本製品はプラグアンドプレイ対応ボードで、パソコン本体側ですべて自動的にリソース（IRQ等）が割り振られるため、本製品側でIRQの指定ができません。よってIRQの空きの確認（パソコン本体側のリソース（IRQ等）の割り振りが正常か）など確認が必要となります。

割り込み(IRQ)の空きの確認方法

●Windows XP/2000の場合

※画面はWindows XPのものですが、特に指示のない限りWindows 2000でも手順は同じです。

- 1 本製品を外してWindowsを起動します。
- 2 デバイスマネージャで割り込み(IRQ)リソースが空いていることを確認します。

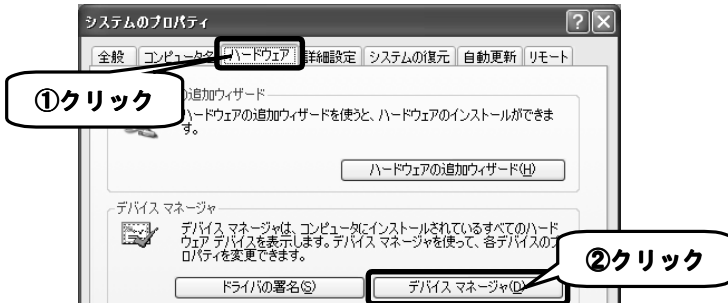
Windows XP の場合

[スタート]をクリックし、[マイコンピュータ]を右クリックして表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。

Windows 2000 の場合

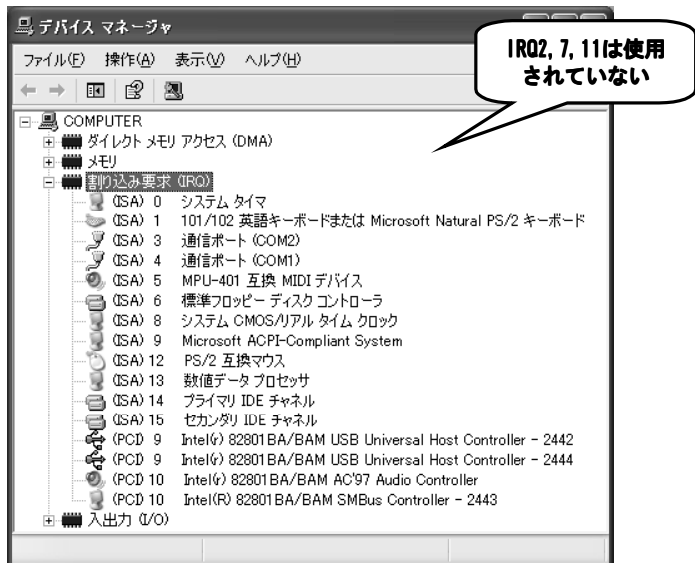
[マイコンピュータ]アイコンを右クリックして、表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。

- 3 [ハードウェア]タブをクリックして、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



困った時には

- 4 [表示]メニューから[リソース (種類別)]をクリックします。
- 5 [割り込み要求 (IRQ)]をダブルクリックして、割り込み (IRQ) の使用状況を確認します。



- 6 空きがない場合は、他の機能を外すなどをして空きを作ってください。

詳細はパソコンメーカーにご確認ください。

- 7 再起動して本製品、IDE機器を接続している場合はIDE機器が正常に動作するかご確認ください。

パソコン本体 (マザーボード) のBIOSセットアップメニューで設定できる場合もあります。詳細は各パソコンメーカーにご確認ください。

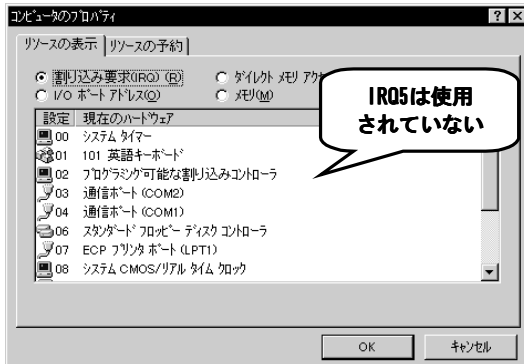
また、実装しているボードの取扱説明書も参照してください。

●Windows Me/98/95の場合

- 1 本製品を外してWindowsを起動します。
- 2 [マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。
- 3 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 4 デバイスマネージャで割り込み (IRQ) リソースが空いていることを確認します。

[デバイスマネージャ]で[コンピュータ]が選択された状態で[プロパティ]ボタンをクリックすると、[コンピュータのプロパティ]画面が表示されます。[コンピュータのプロパティ]画面で割り込み (IRQ) リソースが空いているかを確認できます。

「0」から「15」のIRQが全て何らかのデバイスによって使用されている場合、割り込みの空きが無い状態です。



- 5 空きがない場合は、他の機能を外すなどをして空きを作ってください。
詳細はパソコンメーカーにご確認ください。
- 6 再起動して本製品、IDE機器を接続している場合はIDE機器が正常に動作するかご確認ください。

パソコン本体（マザーボード）のBIOSセットアップメニューで設定できる場合もあります。詳細は各パソコンメーカーにご確認ください。
また、実装しているボードの取扱説明書も参照してください。

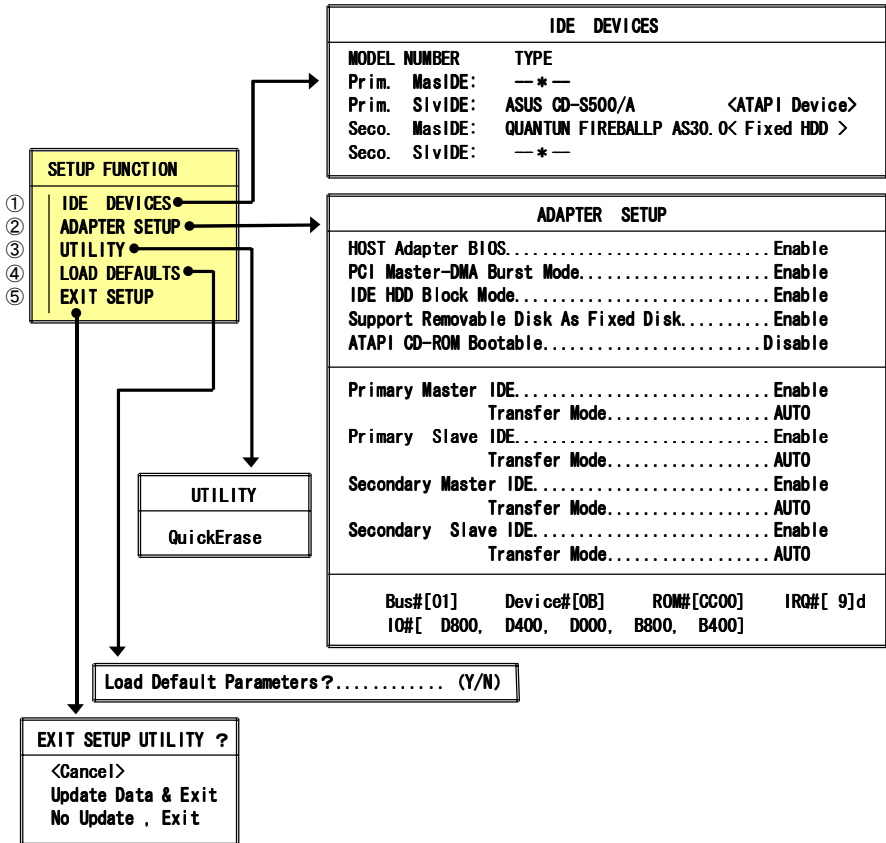
BIOSの設定

ここでは、接続した各IDE機器に対する各種設定を行うための本製品のBIOS設定方法について説明します。**通常は、各設定を変更する必要はありません。**

本製品はパソコンの電源投入直後に、接続したIDE機器をチェック（デバイススキャン）します。画面に [Press [F1] or [F10] To Issue Setup Utility] と表示されます。この時、[F1]キーか[F10]キーを押せば、BIOS設定画面「SETUP FUNCTION」が表示されます。

●BIOS設定項目

BIOS設定画面「SETUP FUNCTION」には下図の5つの項目があります。



① IDE DEVICES

項目（出荷時設定）	機能
Prim. MasIDE	デバイス名、デバイスタイプ、種類を表示します。 （48ページ≪接続機器の表示≫参照）
Prim. SlvIDE	デバイス名、デバイスタイプ、種類を表示します。 （48ページ≪接続機器の表示≫参照）
Seco. MasIDE	デバイス名、デバイスタイプ、種類を表示します。 （48ページ≪接続機器の表示≫参照）
Seco. SlvIDE	デバイス名、デバイスタイプ、種類を表示します。 （48ページ≪接続機器の表示≫参照）

② ADAPTER SETUP

項目（出荷時設定）	機能
Host Adapter BIOS (Enable)	本BIOSを組み込むかどうかを設定します。 通常は「Enable」（有効）に設定してください。 「Disable」（無効）に設定した場合は、以下のようになります。 ・本製品に接続したハードディスクから起動できません。 ・デバイススキャンの表示を含め一切表示を行いません。 （再度表示を行うには、パソコン起動後のメモリカウント直後に、[F1]キーか [F10] キーを押してください。）
PCI Master-DMA Burst Mode (Enable)	本製品でバスマスタ機能（DMA転送）の「Enable」（有効）／ 「Disable」（無効）を設定します。
IDE HDD Block Mode (Enable)	本製品でブロック転送機能の「Enable」（有効）／ 「Disable」（無効）を設定します。
Support Removable Disk As Fixed Disk (Enable)	本製品に接続したリムーバブルディスクを固定ディスクとして設定します。
ATAPI CD-ROM Bootable (Disable)	本製品に接続したATAPI CD-ROMドライブからの起動の 「Enable」（有効）／「Disable」（無効）を設定します。

BIOSの設定

Primary Master IDE Transfer Mode	プライマリマスタに接続した機器の「Enable」（有効）／「Disable」（無効）を設定し、転送モードを設定します。選択できる転送モードは、96ページ【用語解説】の「IDE/ATAPI」のとおりです。
Primary Slave IDE Transfer Mode	プライマリスレーブに接続した機器の「Enable」（有効）／「Disable」（無効）を設定し、転送モードを設定します。選択できる転送モードは、96ページ【用語解説】の「IDE/ATAPI」のとおりです。
Secondary Master IDE Transfer Mode	セカンダリマスタに接続した機器の「Enable」（有効）／「Disable」（無効）を設定し、転送モードを設定します。選択できる転送モードは、96ページ【用語解説】の「IDE/ATAPI」のとおりです。
Secondary Slave IDE Transfer Mode	セカンダリスレーブに接続した機器の「Enable」（有効）／「Disable」（無効）を設定し、転送モードを設定します。選択できる転送モードは、96ページ【用語解説】の「IDE/ATAPI」のとおりです。



【本製品に接続するケーブルと使用可能な転送モードについて】

本製品添付のケーブルは80ピンケーブルです。

Ultra ATA/133の仕様により、80ピンケーブルの接続コネクタの接続位置は決まっています。本製品の接続コネクタ（青色）には、80ピンケーブルの青色コネクタを接続してください。Ultra ATA/133に対応していないケーブル（40ピンケーブル）では、Ultra DMA転送モード3～6は使用しないでください。

③ UTILITY

項目（出荷時設定）	機能
QuickErase	ハードディスクの内容を消去します。よくご確認の上、消去してください。一度消去した内容は元に戻すことはできません。

④ LOAD DEFAULTS

項目	機能
Load Default Parameters?	BIOS設定内容をすべて初期値に戻すかどうかを選択します。

⑤ EXIT SETUP

項目	機能
Cancel	「EXIT SETUP」画面を閉じます。
Update Data & Exit	BIOS設定内容を保存し、設定を終了します。
No Update , Exit	BIOS設定内容を破棄し、設定を終了します。



[Update Data & Exit]を実行した際に以下の操作を行ったり、エラーが表示された場合は、本製品のBIOS ROMが破壊されています。このような場合はAECFLASH.EXEで再度BIOS ROMを書き込む必要があります。(次ページ参照)

- ・ 16回に1回、保存に時間がかかります。この保存処理中にパソコンの電源を切ったり、リセットしてしまった場合。
- ・ 以下のメッセージが表示された場合。

FLASH ROM ERROR ! !

●BIOS修復

本製品には、BIOSが何らかの原因で破壊された場合に修復を行うためのユーティリティ（AECFLASH.EXE）があります。

[使用方法]

1 パソコンをMS-DOSモードで起動します。

「Command Prompt Only」で起動してください。

《Windows XP/2000の場合》

- ① 「MS-DOS 起動ディスク」を作成します。
作成方法については、Windowsのヘルプなどをご覧ください。
- ② ①で作成した起動ディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、パソコンの電源を入れます。
- ③ パソコンが起動したら「MS-DOS 起動ディスク」を抜きます。

《Windows Meの場合》

- ① 「Windows Millennium Edition 起動ディスク」を作成します。
作成方法については、Windows Meのヘルプなどをご覧ください。
- ② ①で作成した起動ディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、パソコンの電源を入れます。
- ③ [Microsoft Windows Millennium Startup Menu]が表示されますので、[Minimal Boot]を選択します。
- ④ パソコンが起動したら「Windows Millennium Edition 起動ディスク」を抜きます。

《Windows 98の場合》

[CTRL]キーを押したままパソコンを起動します。
表示されたメニューから「Command Prompt Only」を選択します。
（メニューが表示されない場合は、パソコン起動直後から[F8]キーを数回押してみてください。）

《Windows 95の場合》

パソコンを起動し、「Starting Windows95」と表示された直後に[F8]キーを押し、すぐ離します。表示されたメニューから「Command Prompt Only」を選択します。（メニューが表示されない場合は、パソコン起動直後から[F8]キーを数回押してみてください。）



Windows上のDOSプロンプトからAECFLASH.EXEを起動しないでください。誤作動の原因となります。

2 サポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットします。

3 以下のように入力して、AECFLASH.EXEを起動します。BIOSの修復を行います。

① コマンドプロンプト（例：C:¥>）が表示されたら、以下のように入力して[Enter]キーを押します。

▼フロッピーディスクドライブがAドライブの場合

A:¥

② 以下のように入力し、[Enter]キーを押します。（A:¥BIOS>と表示されます。）

CD BIOS

③ 以下のように入力し、[Enter]キーを押します。

AECFLASH UIDE133. BIN

④ [Do you ready want to continue (Y/N) ?]と表示されますので、[Y]キーを押して[Enter]キーを押します。

⑤ [Do you want to save the old BIOS to file (Y/N) ?] と表示されますので、[Y]キーを押して[Enter]キーを押します。

⑥ [ID Selected : 0...]と表示されますので、[Enter]キーを押します。

⑦ [Press Any Key to REBOOT !!]と表示されればBIOSの修復は完了です。

4 サポートソフトを抜きます。

5 何かキーを押してパソコンを再起動してください。

以上でBIOSの修復は完了です。

接続後にインストールする

パソコン本体のIDEが大容量ハードディスクに未対応の場合に、本製品にハードディスクを接続したまま、そのハードディスクにOSのインストールおよび本製品ドライバのインストールを行う方法を説明します。

手順を確認する

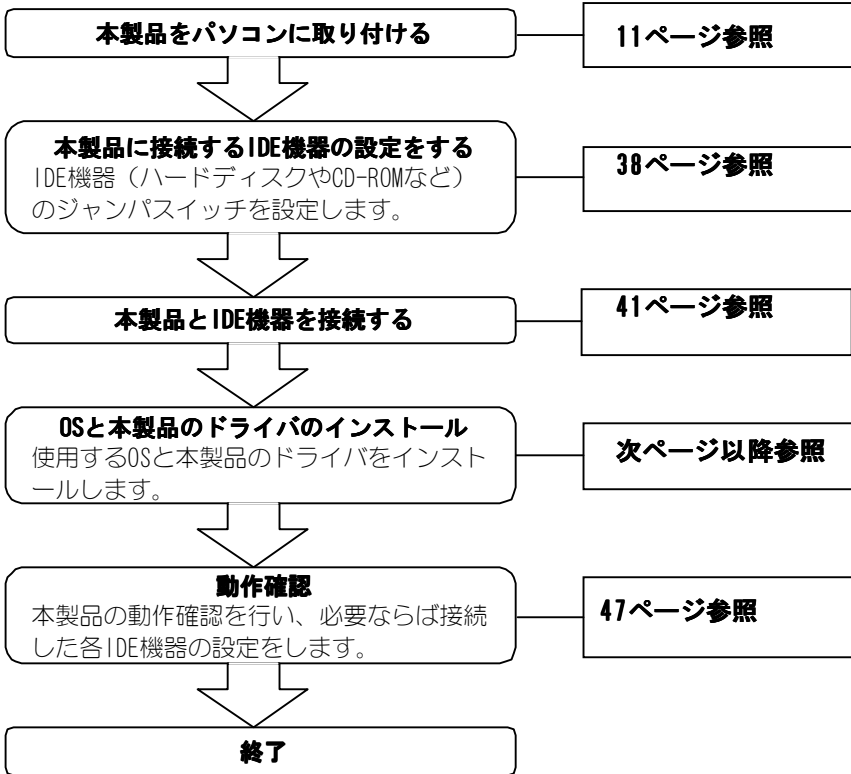


《注意事項》

- ・次ページの方法で作業する場合は、OSの再インストールが必要になりますが、ご使用の本体によりOSの再インストール方法が異なります。
ハードディスクへのOSの再インストールなどに関する「お問い合わせ」「保証」「サポート」は、弊社およびパソコン本体メーカーでは致しかねます。ご了承ください。
- ・増設用のハードディスクを起動用としてご使用になる場合は、環境の移行が完全に終了するまで、必ず元の環境を残してください。
- ・増設ハードディスクに新たにOSをインストールした場合、異なるOSでフォーマットされているハードディスクなどへのアクセスができなくなる場合があります。
- ・OSをインストールする場合はパソコン本体のIDEにCD-ROMドライブが接続されている必要があります。
- ・パソコン本体に接続しているIDE機器の内、起動用となるIDE機器は取り外すか、またはハードディスクの場合は本製品に接続し直す必要があります。
- ・新しく購入した増設ハードディスクを接続し、フォーマットした場合は、接続している機器のドライブ名が変更される場合があります。（【●ドライブの割り当て順位について】（94ページ）参照）
- ・SCSIボードを併用する場合は、OSのインストールおよび本製品のセットアップが完了するまで、SCSIボードを取り外しておいてください。

セットアップ手順の確認

以下の流れにしたがって作業してください。




OSと本製品のドライバのインストール



《注意事項》

- **Windows 98/95プリインストールモデルで行う場合**
Windows 98/95のシステムディスクから起動し、Windows98/95をインストールしてください。
- **OSのインストール方法については各OSの取扱説明書を参照してください。**
弊社および本体メーカーではOSの再セットアップについてのサポート・保証は致しかねます。
- **OSのインストールに使用するCD-ROMドライブについて**
パソコン本体のIDEコネクタに接続してください。

Windows XP/2000

 77ページ

Windows Me

 80ページ

Windows 98

 84ページ

Windows 95

 88ページ

Windows XP/2000

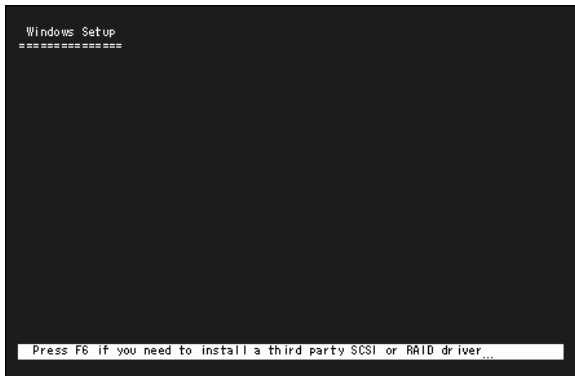
※画面はWindows XPのものですが、Windows 2000でも手順は同じです。

1 Windows XP/2000のインストールを開始します。

2 以下の画面が表示されたら、[F6]キーを押します。

下記の画面は数秒間だけ表示されますので、この画面が表示されている間に[F6]キーを押します。

[F6]キーを押しても、特に画面上の変化はありません。しばらくすると、手順3の画面になります。



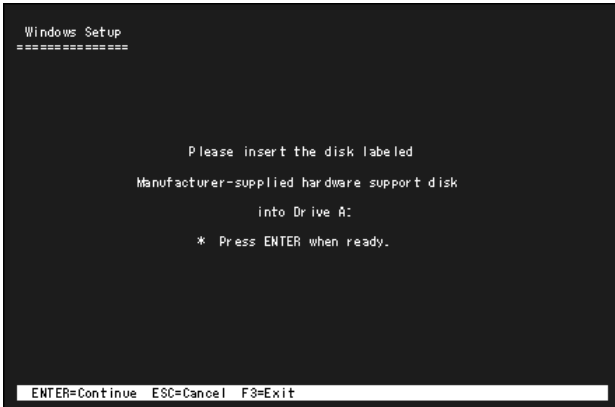
3 しばらくするとすると、下記の画面が表示されます。

本製品のドライバソフトを読み込ませるために、[S]キーを押します。
(S=Specify Additional Device)

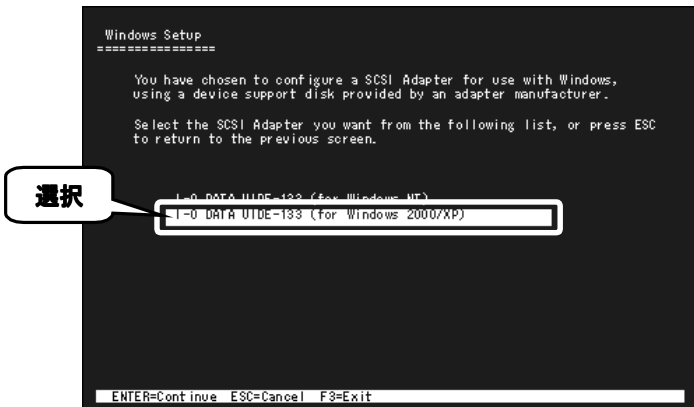


接続後にインストールする

- 4 下記の画面が表示されますので、フロッピーディスクドライブにサポートソフトをセットして [Enter] キーを押します。

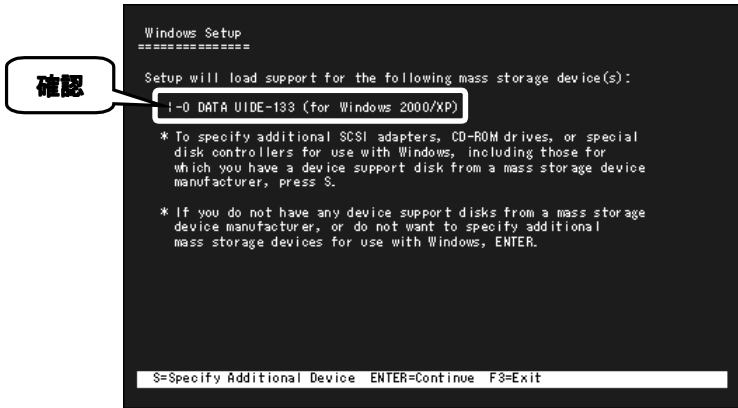


- 5 [↑][↓]キーで、「I-O DATA UIDE-133 (for Windows 2000/XP)」を選択して[Enter]キーを押します。

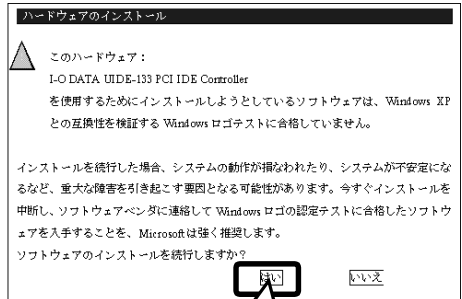
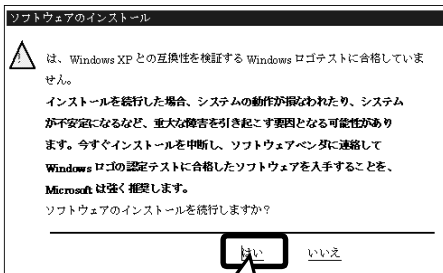


接続後にインストールする

6 選択されたドライバの名称が表示されますので、間違いがないことを確認し、[Enter] キーを押します。



7 以下の画面が表示される場合は、[はい] ボタンをクリックします。

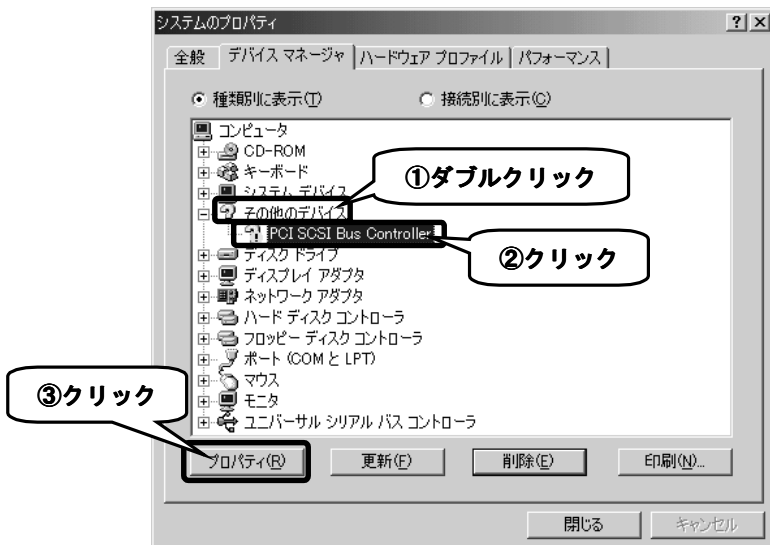


後は画面の指示に従って進めてください。

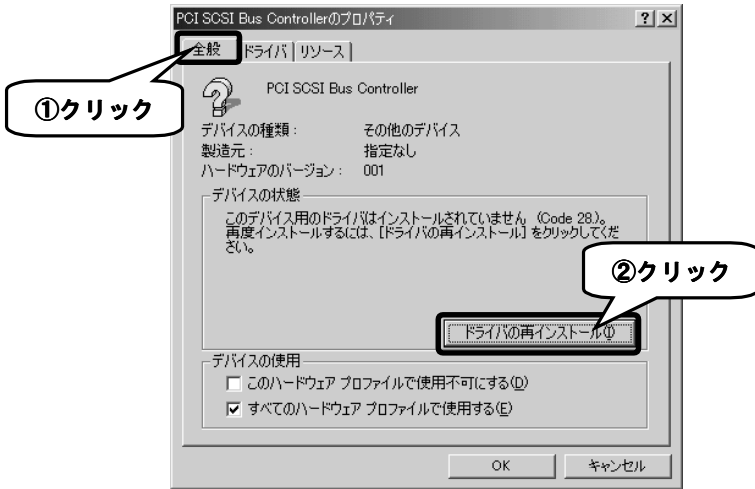
接続後にインストールする

Windows Me

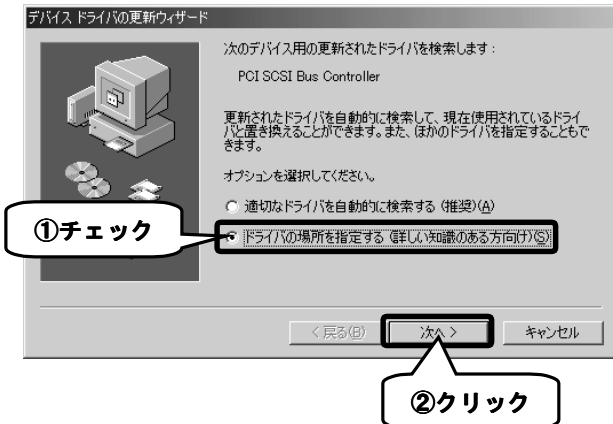
- 1 接続したハードディスクにWindows Meをインストールします。
- 2 Windows Meを起動してサポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 3 [マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。
- 4 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 5 [その他のデバイス]をダブルクリックし、[PCI SCSI Bus Controller]をクリックして[プロパティ]ボタンをクリックします。



6 [全般]タブをクリックして[ドライバの再インストール]ボタンをクリックします。



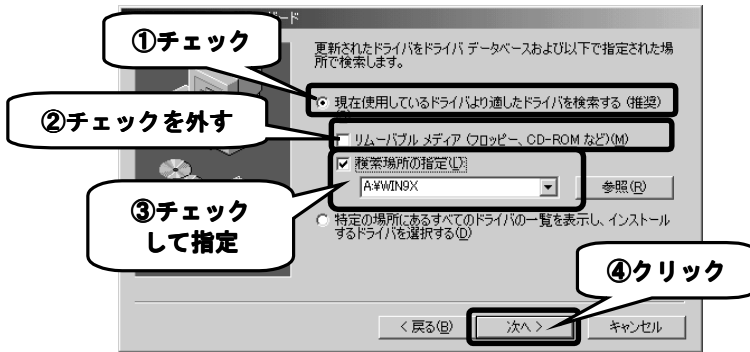
7 [ドライバの場所を指定する…]をチェックして[次へ]ボタンをクリックします。



接続後にインストールする

8 検索場所を指定します。

- ①[現在使用している…]をチェックします。
- ②[リムーバブルメディア…]のチェックを外します。
- ③[検索場所の指定]をチェックしてフロッピーディスクドライブのWIN9Xフォルダを指定します。
例) A:\WIN9X (フロッピーディスクドライブがAドライブの場合)
- ④[次へ]ボタンをクリックします。

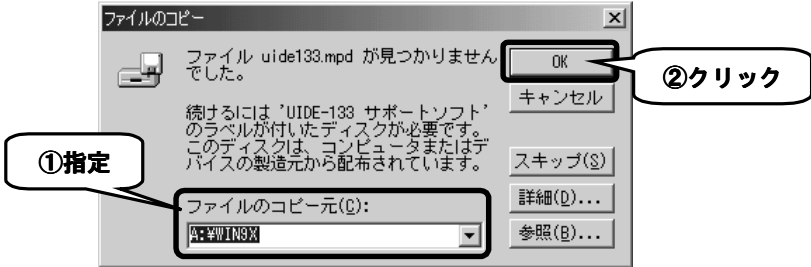


9 [次へ]ボタンをクリックします。



- 10 以下の画面が表示された場合は、[ファイルのコピー元]でフロッピーディスクドライブのWIN9Xフォルダを指定して[OK]ボタンをクリックします。

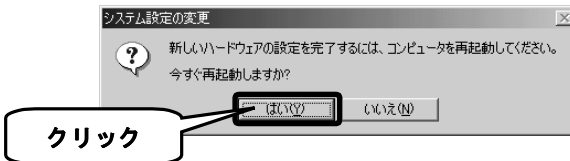
例) A:¥WIN9X (フロッピーディスクドライブがAドライブの場合)



- 11 [完了]ボタンをクリックしてサポートソフトを抜きます。



- 12 [はい]ボタンをクリックしてWindowsを再起動します。

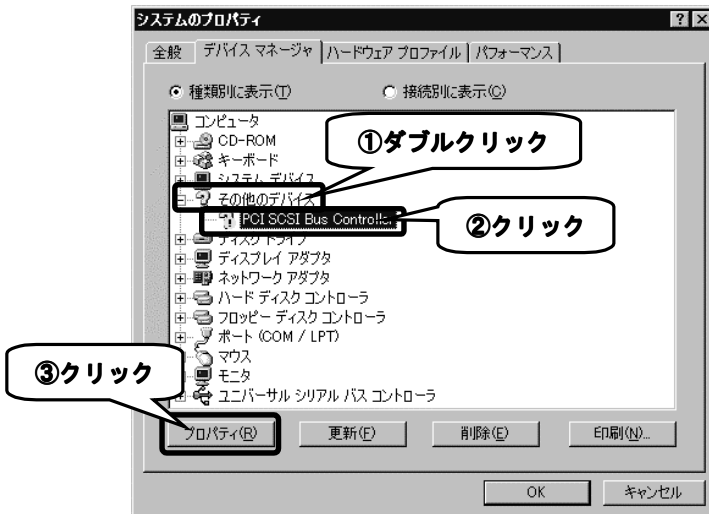


以上で、インストールは終了です。

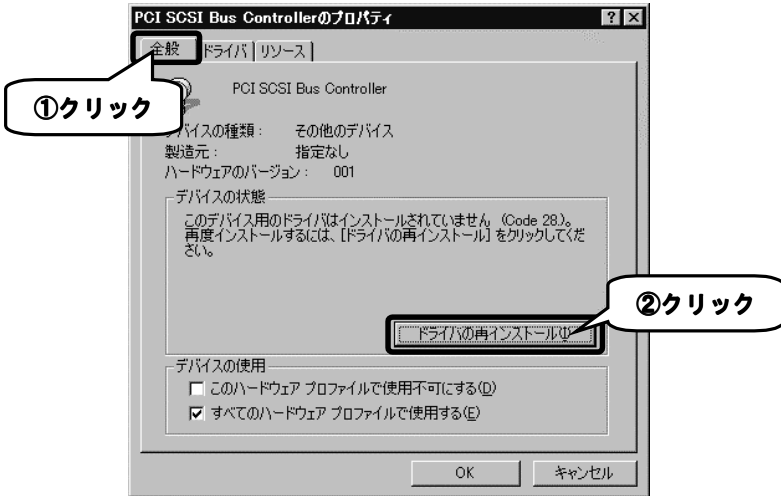
接続後にインストールする

Windows 98の場合

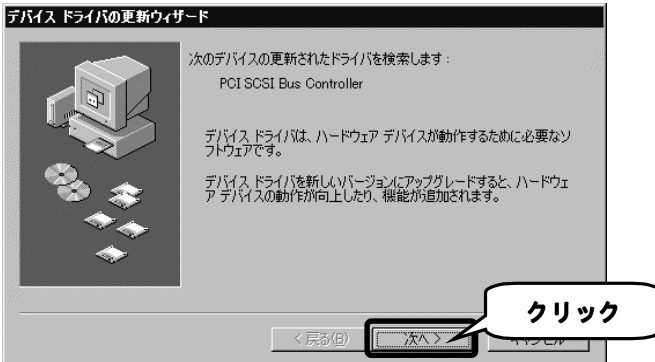
- 1 接続したハードディスクにWindows 98をインストールします。
- 2 Windows 98を起動してサポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 3 [マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。
- 4 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 5 [その他のデバイス]をダブルクリックし、[PCI SCSI Bus Controller]をクリックして[プロパティ]ボタンをクリックします。



6 [全般]タブをクリックして[ドライバの再インストール]ボタンをクリックします。



7 [次へ]ボタンをクリックします。



接続後にインストールする

- 8 [現在使用しているドライバより…]をチェックして[次へ]ボタンをクリックします。



- 9 [検索場所の指定]のみをチェックしてフロッピーディスクドライブのWIN9Xフォルダを指定し、[次へ]ボタンをクリックします。

例) A:¥WIN9X (フロッピーディスクドライブがAドライブの場合)

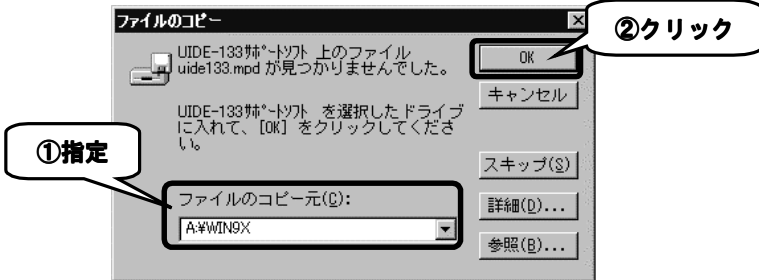


10 [次へ]ボタンをクリックします。



11 [ファイルのコピー元]でフロッピーディスクドライブのWIN9Xフォルダを指定して[OK]ボタンをクリックします。

例) A:\WIN9X (フロッピーディスクドライブがAドライブの場合)



12 [完了]ボタンをクリックします。

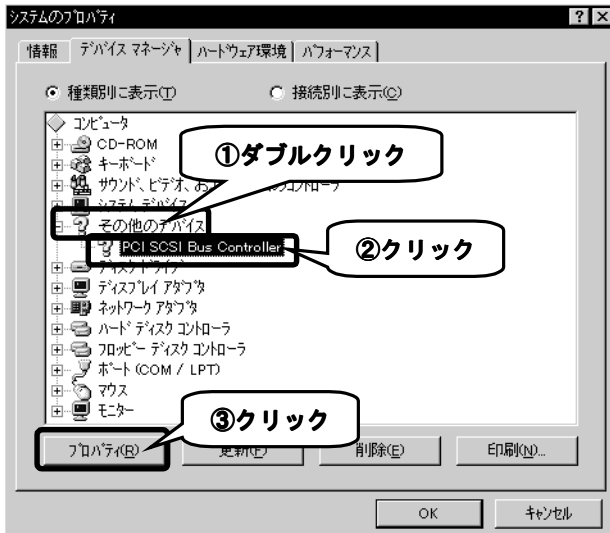
13 サポートソフトを抜いてWindowsを再起動します。

以上で、インストールは終了です。

接続後にインストールする

Windows 95の場合

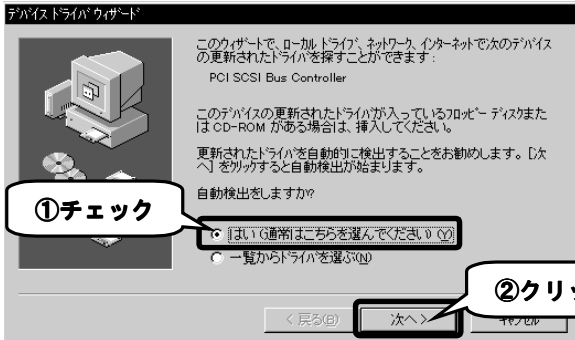
- 1 接続したハードディスクにWindows 95をインストールします。
- 2 Windows 95を起動してサポートソフトをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 3 [マイコンピュータ]アイコンを右クリックして表示された[プロパティ]をクリックします。
- 4 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
- 5 [その他のデバイス]をダブルクリックし、[PCI SCSI Bus Controller]をクリックして[プロパティ]ボタンをクリックします。



6 [ドライバ]タブをクリックして[ドライバの変更]ボタンをクリックします。

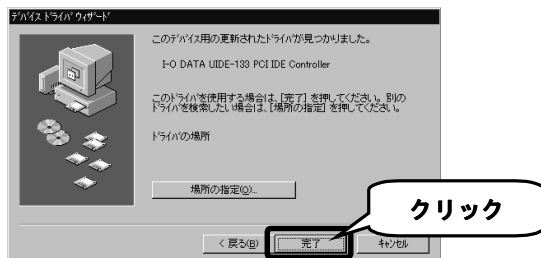


7 [はい…]をチェックして[次へ]ボタンをクリックします。



接続後にインストールする

8 [完了]ボタンをクリックします。

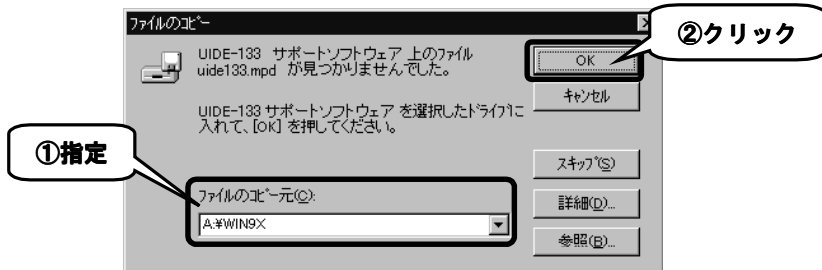


9 [OK]ボタンをクリックします。



10 [ファイルのコピー元]でフロッピーディスクドライブの¥WIN9Xフォルダを指定して[OK]ボタンをクリックします。

例) A:¥WIN9X (フロッピーディスクドライブが A ドライブの場合)



11 サポートソフトを抜いてWindowsを再起動します。



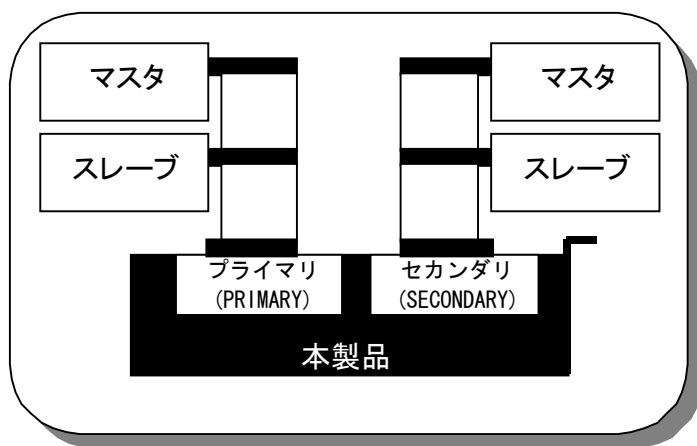
インストール中に「このデバイスを完全に削除できるかどうか判定できません」というメッセージが表示されることがあります。この場合は、必ず[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

以上で、インストールは終了です。

IDE/ATAPIについて

●IDE機器の接続について

本製品には「プライマリ」と「セカンダリ」があります。IDEフラットケーブルを使用してそれぞれ2台ずつ計4台までのIDE機器を接続することができます。ただし、それぞれのケーブルに接続するIDE機器は「マスタ」または「スレーブ」の設定が必要です。例えば「プライマリコネクタ」に2台のIDE機器を接続する場合、一方を「マスタ」にもう一方を「スレーブ」に設定して接続する必要があります。1台のみを接続する場合は、「マスタ」または「シングル」設定にして接続してください。



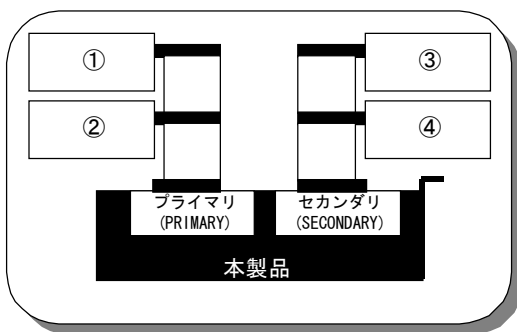
また、各コネクタ接続で「マスタ」「スレーブ」設定したIDE機器を以下の表のように呼びます。

プライマリマスタ	「プライマリ」(ケーブル)接続の「マスタ」設定をしたIDE機器
プライマリスレーブ	「プライマリ」(ケーブル)接続の「スレーブ」設定をしたIDE機器
セカンダリマスタ	「セカンダリ」(ケーブル)接続の「マスタ」設定をしたIDE機器
セカンダリスレーブ	「セカンダリ」(ケーブル)接続の「スレーブ」設定をしたIDE機器

●本製品に接続可能なIDE機器数

パソコンにスペースと電源コネクタや電源容量に余裕があれば、パソコン本体に接続しているIDE機器以外に、本製品に最大4台（プライマリに2台、セカンダリに2台）接続できます。

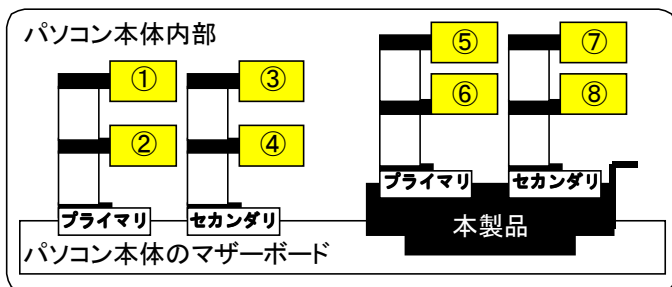
▼コネクタ①～④にそれぞれ1台ずつ接続



接続台数によっては、電源の容量不足のため動作が不安定になる場合があります。

パソコンのIDEコネクタと本製品で、最大8台までのIDE機器を接続できます。

▼最大8台（①～⑧）のIDE機器



本製品にIDE機器を接続する場合、2台目までは付属のIDEフラットケーブルで接続できます。（ただし、接続機器の位置によっては、付属のIDEフラットケーブルだけでは接続できない場合があります。その場合は、別途IDEフラットケーブルが必要となります。）3台目以降を接続する場合、別途IDEフラットケーブルが必要です。オプション品をお買い求めください。（詳細は《別売オプション品》98ページをご覧ください）

●本製品に接続するIDE機器の優先順位

本製品に接続するIDE機器は、以下の順にパソコンに認識されます。

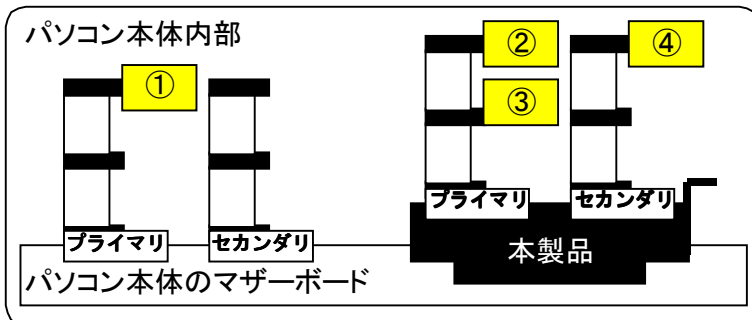
1. 「プライマリマスタ」のIDE機器
2. 「プライマリスレーブ」のIDE機器
3. 「セカンダリマスタ」のIDE機器
4. 「セカンダリスレーブ」のIDE機器

例えば標準ハードディスク以外に増設ハードディスク3台を本製品に接続した場合のドライブ名は以下の表のようになります。

※次ページの「割り当て順位についての注意」によっては、ドライブ名が以下のようにならない場合もあります。

接続機器と接続位置	ハードディスク内の領域 (パーティション)数	ドライブ名
① 起動用標準ハードディスク	2	C, G
② 増設ハードディスク1台目 (プライマリマスタ)	1	D
③ 増設ハードディスク2台目 (プライマリスレーブ)	1	E
④ 増設ハードディスク3台目 (セカンダリマスタ)	1	F

▼①～④はドライブ認識の優先順位



ハードディスクのドライブ名の割り当ては、本製品よりパソコン本体のIDEの方が優先されます。

●ドライブの割り当て順位について

通常、ドライブ（ドライブ名、ドライブ番号）の割り当ての優先順位は以下の通りとなります。

▼本製品に増設ハードディスクを1台接続した場合のドライブ名の例

接続機器と接続位置	ハードディスク 内の領域 (パーティション)数	ドライブ名
フロッピーディスクドライブ		A
パソコン本体接続の起動用標準 ハードディスク	2	C, E
本製品接続の増設ハードディスク	1	D
CD-ROMドライブ		F

※以下の注意によっては、ドライブ名が上記のようにならない場合もあります。



《割り当て順位についての注意》

- ・本製品にハードディスクを接続した場合は以下の優先順位でドライブ名が割り当てられます。
[プライマリマスタ]→[プライマリスレーブ]→[セカンダリマスタ]→[セカンダリスレーブ]
- ・Windows Me/98/95の場合、「基本MS-DOS領域」が「拡張MS-DOS領域」よりも優先されます。そのため、標準ハードディスク等に「拡張MS-DOS領域」がある場合、増設ハードディスクに「基本MS-DOS領域」を作成すると、標準ハードディスク等の「拡張MS-DOS領域」のドライブ名が変更されます。ドライブ名を変更しない場合は、増設ハードディスクには「拡張MS-DOS領域」のみ作成してください。
- ・SCSI接続のハードディスクがある場合、本製品とSCSIボードをPCIスロットに接続する順序によっては、SCSI接続のハードディスクのドライブ名が優先される場合もあります。

●本製品に新しく購入した増設ハードディスク を取り付けた場合の注意

本製品に新しく購入した増設ハードディスクを1台接続しフォーマットした後は、ドライブ名（番号）が変更される周辺機器があります。
（SCSI接続のハードディスクやCD-ROMドライブなど）



- ・SCSI接続のハードディスクのドライブ名が変更されると、接続前に起動ドライブとして使用していたSCSI接続のハードディスクから起動できなくなる場合があります。
- ・CD-ROMのドライブ番号を指定したバッチファイルなどがある場合で、ドライブ番号が変更された場合は新しいドライブ番号に変更してください。また、CONFIG.SYSにLASTDRIVEの設定が必要となる場合があります。

《例》

▼本製品に新しく購入した増設ハードディスクを接続した場合のドライブ名の変化

接続機器と接続位置	ハードディスク 内の領域 (パーティション)数	ドライブ名	
		前	後
フロッピーディスクドライブ		A	A
パソコン本体接続の起動用 標準ハードディスク	2	C, D	C, E
本製品接続の増設ハードディスク	2	-	D, F
CD-ROMドライブ		F	G

※前ページの《割り当て順位についての注意》によっては、ドライブ名が上記のようにならない場合もあります。（上記は増設ハードディスクを2つの領域に分割した場合です。）

上記表では、増設ハードディスクの接続前後では以下の各ドライブ名が変更されているのが分かります。

- ・パソコン本体接続の起動用標準ハードディスク
- ・CD-ROMドライブ

用語解説

IDE/ATAPI

IDE/ATAPIとは、米国の標準化団体であるANSI (American National Standards Institute)によって、IDE機器の規格を標準的に定めたものです。

まず、IDEに対応したハードディスクの出現により、それを規格化する動きがありATA規格が定まりました。その後IDE対応のCD-ROMドライブの出現で、Enhanced IDE仕様がドライブメーカーから提案されました。またANSIによりATAPI規格も検討され、IDE/ATAPI規格として標準化されました。IDE/ATAPIでは、最大転送速度は133MB/sec (理論値)とし、また転送されるデータの信頼性を向上させるためにCRCのエラーチェックも行うようにしています。

IDE/ATAPIの転送モード (方式) には、以下の3種類があります。

(以下の転送速度はすべて理論値)

① Ultra DMA転送方式 (モード) 0~6

Ultra DMA mode0 : モード0 (最大転送速度16.6MB/sec)

Ultra DMA mode1 : モード1 (最大転送速度25MB/sec)

Ultra DMA mode2 : モード2 (最大転送速度33.3MB/sec)

Ultra DMA mode3 : モード3 (最大転送速度44.4MB/sec)

Ultra DMA mode4 : モード4 (最大転送速度66.6MB/sec)

Ultra DMA mode5 : モード5 (最大転送速度100.0MB/sec)

Ultra DMA mode6 : モード6 (最大転送速度133.3MB/sec)

② マルチワードDMA転送方式 (モード) 0~2

Normal DMA mode0 : モード0 (最大転送速度4.2MB/sec)

Normal DMA mode1 : モード1 (最大転送速度13.3MB/sec)

Normal DMA mode2 : モード2 (最大転送速度16.6MB/sec)

③ PIO転送方式 (モード) 0~4

PIO mode0 : モード0 (最大転送速度3.3MB/sec)

PIO mode1 : モード1 (最大転送速度5.2MB/sec)

PIO mode2 : モード2 (最大転送速度8.3MB/sec)

PIO mode3 : モード3 (最大転送速度11.1MB/sec)

PIO mode4 : モード4 (最大転送速度16.6MB/sec)

Ultra DMA転送方式

IDE/ATAPIで規定されている転送方式です。最大転送速度は133.3MB/sec(理論値)です。PIO転送方式に比べてCPU占有率が低いいため、ビデオCDなどの再生も大変スムーズです。

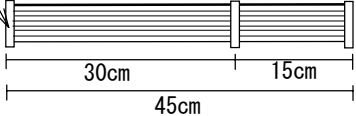
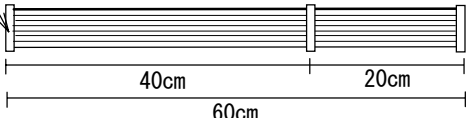
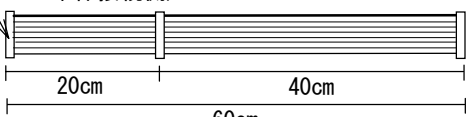
DMA転送方式

CPUを介すことなく、直接機器からシステムのメモリ(またはその逆)へのデータ転送を行う方式です。PIO転送方式に比べてCPU占有率が低いため、ビデオCDなどの再生も大変スムーズです。

PIO転送方式

CPUに直接I/Oポートをアクセスさせて、機器とのデータ転送を行う方式です。そのため、CPUにかかる負担は重くなります。

別売オプション品

型番	長さ	タイプ
FL-I40H ※	45cm	Ultra ATA/133/100/66対応IDEフラットケーブル 青いコネクタ (パソコン本体接続側) 
FL-I40H-L ※	60cm	Ultra ATA/133/100/66対応IDEフラットケーブル 青いコネクタ (パソコン本体接続側) 
FL-I40H-L2 ※	60cm	Ultra ATA/133/100/66対応IDEフラットケーブル 青いコネクタ (パソコン本体接続側) 

※ Ultra ATA/33やその他の転送方式に対応した機器やパソコンとインターフェイスボードでも使用できます。

仕様

本製品の仕様です。

転送モード	Ultra DMAモード0~6 (最大転送速度133.3MB/sec : 理論値) Multi Word DMAモード0~2 (最大転送速度16.6MB/sec : 理論値) PIOモード0~4 (最大転送速度16.6MB/sec : 理論値)
インターフェイス	ATA/ATAPI-6対応
IRQ(割り込み)	PCIシステムによる自動設定
I/Oアドレス	PCIシステムによる自動設定
BIOSアドレス	PCIシステムによる自動設定
使用温度範囲	+5°C~35°C
使用電源電圧	+5V±5%
消費電流(最大)	500mA
サイズ	139.7(W)×55.3(H)mm(金具含まず)
質量	65g(金具含む)

お問い合わせ先

サポートセンター

お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名。
3. ご使用のサポートソフトのバージョン。
4. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
5. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョンおよびメーカー名。
6. 現在の状態(「デバイスマネージャに本製品が表示されない」などの内容)。

オンライン

インターネット <http://www.iodata.jp/support/>
「サポートセンターお問い合わせ」内のフォームを使用してE-mailをお送りください。

郵便

住所 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「UIDE-133」係 宛

電話・FAX

電話番号	本社 076-260-3367	東京 03-3254-0340
電話受け付け時間	9:30~19:00 月~金曜日(祝祭日を除く)	
FAX番号	本社 076-260-3360	東京 03-3254-9055

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。予めご了承ください。

サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。

オンライン

サポートライブラリ <http://www.iodata.jp/lib/>

サービス窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「UIDE-133」 サービス窓口 宛

電話番号 076-260-3663

受付時間 9:30~12:00 13:00~17:00 月~金曜日（祝祭日を除く）

ご注意

- オンラインによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
- 添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、

- ①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
- ②弊社サポートセンターへお問い合わせください。
（【サポートセンターへのお問い合わせ】をご覧ください）

明らかに故障の場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。

その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

- ・保証期間中は、無償にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有償となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。
- ・保証期間が終了した場合は、有償にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
- ・お送りいただいた後、有償修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、ハードウェアシリアルNO.、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

- ・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。
- ・下の内容を書いたもの
返送先 [住所/氏名/(あれば)FAX番号]，日中にご連絡できるお電話番号，
ご使用環境（機器構成、OSなど），故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

- ・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。
- ・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

- ・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
※原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
- ・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器 修理係 宛

修理品の返送

- ・修理品到着後、通常約1週間ほどで弊社より返送できます。
※ただし、有償の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。
- ・修理品の返送日については以下の窓口にお問い合わせください。

●サービス窓口

お問い合わせの際は、ご依頼の際にメモに控えた内容をお伝えください。

電話番号 076-260-3663
受付時間 9:30~12:00 13:00~17:00
月~金曜日（祝祭日を除く）

UIDE-133 取扱説明書

2002. Jan. 23 106043-01

発行 株式会社アイ・オー・データ機器

〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2002 I-O DATA DEVICE, INC. All rights reserved.

本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。